

2018年8月13~14日

安倍・石破改憲、古賀安倍改憲批判、総裁選、国民民主党、翁長さんお別れ、沖縄、南北・米朝、戦争の記録・証言

首相、党改憲案提出「次の国会に」 石破氏「議論必要」
朝日新聞デジタル 2018年8月13日 11時52分

安倍晋三首相は12日、地元・山口県下関市で講演し、自衛隊の明記などを盛り込んだ自民党の憲法改正案について「次の国会に提出できるよう取りまとめを加速すべきだ」と語った。9月の党総裁選で改憲を争点にする考えも改めて示し、「総裁選が党员の間で議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待する」と話した。

首相は7月20日の記者会見で、党改憲案の「速やか」な国会提出に意欲を見せたが、具体的な時期には言及しなかった。12日の講演では「次の国会」と踏み込み、秋の臨時国会や来年の通常国会への提出をめざす考えを示した。

首相は講演で、自衛隊の明記や教育無償化など党の改憲4項目を挙げ、「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と主張。9条への自衛隊明記について、「全ての自衛官が誇りを持って任務を全うできる環境を整えることは、政治家の責任。自衛隊を明記することで私はその責任を果たしていく決意だ」と強調した。

首相には総裁選を機に改憲機運を高める狙いもあるが、総裁選への立候補を表明した石破茂・元幹事長は12日、記者団の取材に応じ、首相の発言に対して「党議決定もしていない。もう一度、議論が必要だ。最低限、党議決定のプロセスが必要だ」と指摘。9条改正には「丁寧な手続きが必要」であり、参院選挙区の合区解消や緊急事態条項の創設を念頭に「憲法改正は、急ぐものや多くの党の理解を得られるものからやろうということだ」と述べた。

一方、連立を組む公明党は早期の改憲に慎重な姿勢を崩していない。森友・加計学園問題で国民から厳しい視線が向けられる中、野党がさらに反発を強める可能性もあり、改憲論議の道のりは険しい状況だ。

改憲、自民総裁選争点に...首相「次国会に提出」

読売新聞 2018年8月13日 23時29分

安倍首相（自民党総裁）は12日に講演し、9月の党総裁選で憲法改正を争点とする意向を表明した。秋に予定される臨時国会に自民党の改憲案を提示する方針も打ち出し、自衛隊の根拠規定を明記する改正の実現に強い決意を示した。

講演は地元・山口県下関市で約70分行われた。首相は憲法改正について「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない。党の憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と述べた。

総裁選への自らの出馬には言及しなかったものの、「総裁選が党员の間で議論を深め、一致団結して前に進むきっか

けとなることを期待している」と語り、10日に出馬を表明した石破茂・元幹事長との憲法論戦に意欲を見せた。

自民・改憲案、秋の臨時国会にも提出...首相表明

読売新聞 2018年8月13日 17時38分



地元で講演する安倍首相（12日、山口県下関市で）

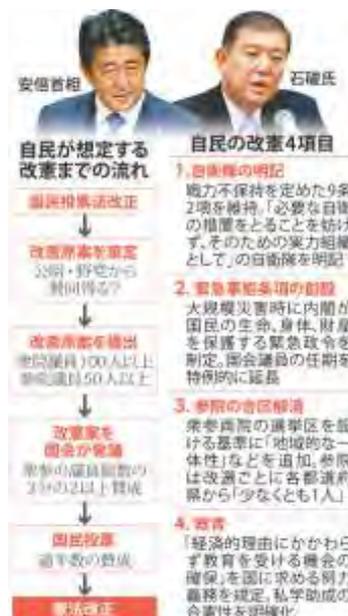
安倍首相（自民党総裁）は12日、地元の山口県下関市で講演し、憲法改正について、「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と述べ、自民党としての改正案を秋に予定される臨時国会に提示する考えを表明した。

講演で首相は「党の改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを加速すべきだ」と述べた。「憲法改正は立党以来の党是だ。誰が総裁になろうともその責任を果たしていかなければならない」とも語り、石破茂・元幹事長との事実上の一騎打ちとなる見通しの党総裁選で、憲法改正を主要な争点とする考えを明らかにした。

首相は「憲法の中に、我が国の独立と平和を守ること、自衛隊をしっかりと明記することで責任を果たしていく決意だ」と述べ、憲法9条の改正を目指す考えを強調した。「人づくりこそ、国造り。（人づくりは）国家百年の計だ」とも語り、党の改憲4項目の一つである「教育の充実」も憲法に書き込むべきだとした。

憲法改正 強気の安倍首相「次国会提出を」 石破氏「拙速は失敗」 公明「勝手にやればいい」

毎日新聞 2018年8月13日



自民が想定する改憲までの流れと自民の改憲4項目

安倍晋三首相（63）が12日の講演で、自民党の憲法改正案を秋の臨時国会で提出できるよう議論を加速させた考えを示した。9月の党総裁選で一騎打ちが予想される石破茂元幹事長（61）は拙速な議論を批判しており、改憲は総裁選の大きな争点だ。ただ、自衛隊明記などの自民案が他党の賛同を得られる見通しは依然立たず、総裁選が改憲実現の地ならしにつながるとは限らない。【田中裕之、影山哲也】

「いつまでも議論を続けるわけにいかない。次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」。首相…

自民 石破氏「党議決定もない」 首相の改憲案提出発言で

毎日新聞 2018年8月13日 11時52分(最終更新 8月13日 12時14分)



安倍晋三首相

安倍晋三首相（63）＝自民党総裁＝は12日、地元の山口県下関市で講演し、憲法改正について「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを加速すべきだ」と述べ、秋に予定される臨時国会で改憲論議が深まることに期待を表明した。また、「（どう改憲を実現するか）総裁選が、党员の間でしっかり議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待している」と語り、9月の党総裁選で改憲を争点にする姿勢を改めて示した。

講演は、産経新聞社の路線に賛同する任意団体「『正論』懇話会」が開催した。首相は、憲法改正について「（自民党）立党以来の党是だ」と改めて指摘。「誰が総裁になろうとも責任を果たしていかなければならない。改正には極めて高いハードルを乗り越える必要がある」と強調した。

首相は総裁選で、憲法9条第1項（戦争放棄）と第2項（戦力不保持）を維持しつつ自衛隊の存在を明記する改憲案を訴え、党员に支持を広げたい考えだ。これに対し、総裁選で一騎打ちとなることが想定される石破茂元幹事長（61）は9条第2項を削除したうえで、自衛隊を「戦力」と位置付ける改憲案を持論としている。首相は「政治は結果であり、どのように幅広い同意を得て憲法改正を実現するか」と述べ、石破氏をけん制した。

また、昨年の衆院選で党の公約に掲げた幼児教育や高等教育の無償化について「（人づくりは）国家百年の計。憲法の中にしっかりと書き込んでいくべきだ」と述べた。



石破茂氏

一方、石破氏は12日夜、党憲法改正案の国会提出について「党議決定も何もしていない。もう一回きちんと議論をすることが必要だ」と述べ、さらなる党内議論が必要だとの考えを示した。東京都内で記者団の質問に答えた。

党憲法改正推進本部は3月、9条第1、2項を維持しつつ自衛隊の存在を明記するなど4項目の改憲案を策定したが、党内の意思決定機関である総務会の上程は得ていない。石破氏は首相が主導する自衛隊明記について「（自衛隊の権限など）『何にも変わらないんだ』という改正をすべきだとは思わない」と慎重な姿勢を示し、「党議決定のプロセスは最低限必要だ」とくぎを刺した。【川辺和将、竹内望】

首相、改憲を総裁選争点に 「9条」党内議論に決着

2018/8/13 19:54 情報元日本経済新聞 電子版

安倍晋三首相（自民党総裁）が憲法改正を党総裁選の争点とする意向だ。党は憲法9条の戦力不保持を維持しつつ自衛隊を明記する改正案をまとめており、首相は今秋の臨時国会への提出を描く。9条を総裁選の争点にして勝つことで石破茂元幹事長の反論を封じ、党内議論に決着をつける狙いがある。



山口県下関市で講演する安倍首相（12日夕）＝共同

首相は12日、地元の山口県下関市で講演し「党の改憲案を次の国会に提出できるようとりまとめを加速すべきだ」と訴えた。「総裁選が党员の間でしっかり議論を深め、一致団結して前に進むきっかけになるのを期待している」とも語った。

自民党は今年3月の党大会で、9条に新設する「9条の2」に自衛隊を明記する改憲案をとりまとめた。首相が提起した内容を踏襲した。総裁選の対抗馬となる石破氏は反対しており、党内にも石破氏に同調する意見がある。

石破氏は13日、日本経済新聞社の取材に党の改憲案は「論理的に成り立たない」と批判した。戦力不保持や国の交戦権を認めない文言を9条に残したままだと、自衛隊が戦力にあたるのか交戦権を持つのかといった議論が続きかねないためだ。自衛隊違憲論をなくすために明記するとの

首相の主張にも「世の中の人々は自衛隊を違憲だと思っていない」と反論した。

首相の12日の発言には、こうした議論を終わらせる思惑がある。総裁選は首相が優勢とされており、改憲を争点に石破氏に勝てば、終止符を打てる計算する。

総裁選後への布石も見据える。党則は総裁任期を連続3期までと定めている。首相が総裁選で3選しても、2021年9月末までには退任する。改憲を主要な政治課題に掲げることで政権のレームダック（死に体）化を防ぎ、支持基盤である保守層をつなぎ留める計画だ。

今後の改憲戦略をめぐるのは、首相やその周辺は今秋の臨時国会で改憲案を提出し、来年の通常国会で発議する段取りを描く。こうした日程も、首相が政権の求心力を維持していくうえでは数少ない選択肢だ。

現在、改憲勢力は衆参両院で国会発議に必要な3分の2以上の議席を有している。6年前の参院選は大勝した。首相側近は「19年夏の参院選で議席は必ず減る。3分の2以上の議席を保てなくなる」と指摘する。

発議を参院選よりも前にできなければ政権の改憲目標は形骸化しかねず、首相の求心力にも影響する。

首相「改憲案、次の国会に提出」 議論加速の意向

日経新聞 2018/8/13 10:31

安倍晋三首相（自民党総裁）は12日、地元の山口県下関市で講演し「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう取りまとめを加速すべきだ」と述べた。今秋召集予定の臨時国会で改憲論議を前進させる意向を示した。9月の党総裁選について「党员の間で（改憲の）議論を深め、一致団結して前に進みきつかけとなることを期待する」と語った。



山口県下関市で講演する安倍首相（12日夕）＝共同

首相は「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない。誰が総裁になろうともその責任を果たしていかなければならない」と指摘した。「政治は結果であり、幅広い合意を得て実現する」と、与野党での合意形成を目指す方針を示した。

自民党は3月、憲法9条への自衛隊明記を柱とする4項目の改憲案をまとめた。首相は同案を軸に具体的な議論を進める意向だ。7月の記者会見では「憲法改正は自民党結党以来の党是だ。次の総裁選では大きな争点になると考えている」と語り、総裁選の主要な論点になると強調していた。

講演では北朝鮮による日本人拉致問題解決のため、金正恩（キム・ジョンウン）委員長との日朝首脳会談をめざす考えを改めて表明した。日中関係の改善やロシアとの平和条約締結に意欲を示し「新しい時代の北東アジアの平和と繁栄の礎を築かなければならない。戦後外交の総決算をなし遂げるときだ」と訴えた。

学校法人「森友学園」「加計学園」の問題にも言及した。「首相の立場が周囲に与える影響を意識する必要があると胸に刻み、慎重に政権運営にあたる」と話した。

外国人労働者の受け入れ拡大に向けて「法務省の組織体制を抜本的に見直し、在留管理を適切に実施する」と表明した。人手不足が深刻な建設や農業、介護など5業種を対象に2019年4月に設ける新たな在留資格は「いわゆる移民政策ではない」と説明した。

産経新聞 2018.8.13 21:49 更新

安倍晋三首相、9条改正を自民総裁選の争点に 消極的な石破茂氏を牽制



長州「正論」懇話会 設立5周年記念講演会で講演する安倍晋三内閣総理大臣。中盤からは眼鏡をかけて講演した＝12日午後、山口県下関市（奥清博撮影）

安倍晋三首相（自民党総裁）は、憲法改正の自民党案を秋に予定される臨時国会に提出する意向を表明するとともに、改憲案に自衛隊を明記することを改めて訴え、9月の党総裁選で争点にする考えを重ねて示した。10日に出馬表明した石破茂元幹事長が9条改憲を争点から外したことを逆手に取り、総裁選で堂々と論戦に持ち込む狙いだ。ただ、臨時国会への改憲案提出には野党が強く抵抗するとみられる。来年には参院選があるなど重要な政治日程も数多く、先は容易ではない。

「ある自衛官は息子さんから『お父さん、憲法違反なの？』と尋ねられたそうです。そのとき息子さんは、目に涙を浮かべていたと言います」

安倍首相は12日、長州「正論」懇話会の設立5周年記念講演会で講演し、多くの教科書が自衛隊違憲論を掲載していることをめぐるエピソードを紹介した上で、自衛隊を違憲とする議論に終止符を打つ必要性を説いた。

憲法9条改正では、戦力不保持を定めた2項を維持して自衛隊を明記する首相案に対し、安全保障政策を得意とする石破氏は2項削除が持論だ。しかし、石破氏は10日の出馬表明の記者会見で、9条改正よりも参院選の合区解消や緊急事態条項創設が優先だと主張した。

背景には、9条2項の削除は集团的自衛権をフルスペッ

ク（際限ない形）で認めることにつながりかねないため、国民や連立を組む公明党の理解が得にくく、自民党内でも「正論だが非現実的」（長老）とみなされている実態がある。

また、党が3月に改憲4項目の条文案をまとめたことを踏まえ、石破氏への支持を検討する議員からも「今さら自分の考えを打ち出して争点化するのはちやぶ台返しだ。石破氏が9条を争点にするなら支持しない」との声が出ていた。

「来る総裁選が党员の間でしっかりと議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待している」

安倍首相はこうした石破氏の状況を見透かし、挑発するかのようにあえて改憲の争点化を強く打ち出したとみられる。

ただ、臨時国会への改憲案提出は容易ではない。自民党は先の通常国会で、憲法改正の手続きを定めた国民投票法の改正案の審議を呼び水に、衆参の憲法審査会での改憲論議を促す構図を描いた。これに対し、立憲民主党などは学校法人「森友学園」「加計学園」問題など政局を絡めて憲法審査会の開催を拒み続けた。自民、公明両党などが提出した同法改正案は衆院憲法審で趣旨説明しかできなかった。

また、統一地方選や参院選が来年に控えている。数の力を背景に改憲案の国会提出に踏み切れれば、野党や世論の反発を強めることにもなりかねない。

「今を生きる政治家の責任」として首相が改憲を進めるには、総裁選で圧勝し党内基盤を強化するのが必須条件になりそうだ。

（原川貴郎）

産経新聞 2018.8.13 22:05 更新

【長州「正論」懇話会設立5周年記念】安倍首相講演詳報 （1）『「安倍1強」と言われているが、私は極めて宥和的な人間』

安倍晋三首相（自民党総裁）は12日、地元・山口県下関市内で開かれた長州「正論」懇話会の設立5周年記念講演会で講演し、9条に自衛隊を明記するなどの憲法改正に関して、秋に予定される臨時国会に自民党案の提出を目指す意向を初めて表明した。講演の詳報は次の通り。

◇

「長州といえば先日、(NHKの)大河ドラマ『西郷どん』で禁門の変と長州出兵が取り上げられていました。あの頃が長州にとっては一番厳しい時代だったわけですが、あれは明治維新のわずか4年前の出来事なんです。逆を言えば、長州の人々はあのどん底から、たった4年で大逆転を果たし、維新の大業を成し遂げた。いわんや、5年もあれば、長州人にとっては何かを成し遂げるのに十分な時間だと思います。その意味で、5周年を迎えられたこの長州『正論』懇話会は全国13の懇話会のうち、11番目にできた比較的历史の若い方ですが、もはや正論路線全体の一翼を担う、

隆々たる懇話会へと発展している、そう確信しています。もっとも『正論』懇話会のもう1つの裏の目的である、産経新聞の売り上げアップにどれだけ貢献しているかどうかは定かではありませんが」

「昨日(11日)、東京から戻ってまいりました。明日(13日)は関門海峡花火大会もありますが、やっぱり古里はいいですね。『江山は秀麗にして仙郷に似たり』。明治24年、久しぶりに長州・萩に戻ってきた伊藤博文が指月山で詠んだ詩の一節です。当時は2度目の総理大臣になる数カ月前、枢密院議長だったころですが、常に緊張を強いられる東京を離れ、古里の美しい山や川を目にすると、難しい政治の話をひととき忘れて、心からリフレッシュできたのではないかと思います」

「私も古里に戻ってまいりますと、この美しい山並みや日本海の風景を目に焼き付け、そしておいしい空気を胸一杯、吸い込むことにしています。代わりに肺にたまった永田町の空気は、この際、目いっぱいはき出して帰ることにしています。やっぱりそうやって永田町の空気を全部はき出して、古里の空気を吸うとですね、ここにおられる皆さんのように、すがすがしい人間になったと思っています」

「半年にわたった今年の通常国会も、半月ほど前に終了しました。この国会中、決裁文書の改竄(かいざん)など、行政をめぐるさまざまな問題が相次ぎ、国民の皆様の信頼を損ない、また古里の皆さまにも大変なご心配をおかけしましたことをまず深くおわび申し上げたいと思います。行政文書とは本来、国の営みの歴史を正確に刻むもの。そして国民と行政とをつなぐ最も基礎となるインフラです。決裁文書の改竄など絶対にあってはならないのです。政府を挙げて再発防止に取り組んでまいります」

「森友学園への国有地売却、(加計学園の)獣医学部の新設をめぐっても、昨年に続き、大きな議論となりました。行政プロセスの問題、私自身の関与の問題について、いろいろと厳しいご指摘、ご批判をいただきました。行政プロセスが公平、適正に行われてきたことについて、私自身も繰り返し国会で真摯(しんし)に説明を繰り返してまいりました。今後とも指摘があれば丁寧に説明責任を果たしていかなければならない。この思いにももちろん、変わりはありません」

「同時に今、強く思っておりますのは、国民の皆さんの目線に立てば、私の妻や長年の友人が関わっていたのであれば、そこに疑念の目が向けられることは当然であって、その点への意識が必ずしも十分ではなかったということでもあります。国家、国民のために何をなすべきか。その大義のもとで、行政を公平につかさどる。これは総理大臣として当たり前の責務です。それでもなお、総理大臣という立場が周囲に与える影響を常に意識する必要がある。そのことをしっかりと胸に刻みながら、今後、慎重な上にも慎重に、政権運営に当たらなければならない、そう考えてい

ます」

「そもそも、今の政権運営の礎は12年前、第1次内閣のときの経験、わずか1年で総理の職を辞めざるを得なかった、あのときの深い反省です。国民の皆さまに大変なご迷惑をおかけしました。マスコミからも厳しく批判され、率直に申し上げて、『政治家としてはもう終わりかな』と思い悩んでおりました。しかし、そうした私を温かく迎えてくれたのはまさに、ここ古里でした。本当にたくさんの方々から温かい言葉をかけていただいたことは、今も決して忘れません。地元の皆さんからの大きな励ましにより、私は『もう一度、一からがんばろう』と立ち直ることができました。まさにその時、もう一度政治家としての命を、魂を吹き込んでいただいたのが、皆さま、古里の皆さまであります。この場をお借りいたしまして、改めて厚くお礼を申し上げます」

「1度目はまだ私も50代の若さでありましたから、やっぱり肩に力が入っていました。もっと大きかったのは国政選挙で、国民の審判を受けて総理大臣になったわけではなかったという点です。6年前は幸運にも党の総裁になってすぐ、(衆院)解散・総選挙がありました。国民の皆さまに、直接政策を訴え、選挙に勝った上で総理大臣になった。これが、その後のさまざまな改革を進める大きな力になったと感じています」

「今、『安倍1強』とか言われておりますが、私は古里の皆さんが一番分かってくださっている通り、私は極めて宥和(ゆうわ)的な人間であります。まあ、この辺の皆さん、しっかり、うなずいていただいたと思います。あの平和安全法制のときも党内で徹底的に議論してもらい、その結果をベースに進めてきました。これが私のスタイルです。強権的なやり方なんて、いずれにせよ長続きはしません。逆に、大きな改革であればあるほど、まずしっかりと国政選挙で問う。そして国民の皆さんの支持を得て、それを実行に移していきます。民主主義の基本に立ち返るしかないんです」

「この通常国会では、長時間労働の是正や同一労働同一賃金など、働き方改革関連法が成立しました。育児や介護など、さまざまな事情を持つ皆さんが多様な働き方を選択できる『1億総活躍』の新しい時代に向かって大きな扉を開くことができたと考えています。国会でさまざまな議論もありましたが、労働基準法の制定以来、実に70年ぶりの大改革が実現できたのは、先の総選挙で、国民の皆さんから支持をいただいた結果です」

「正直申し上げます、選挙は肉体的にも精神的にも大変ですが、この5年余り、衆参あわせて5回の選挙で、私たちの政策に国民の皆さんから支持を受けることができました。そのことによって、さまざまな改革に次々とチャレンジすることができました。そうした成果が一つ一つ実を結びつつある。前回、年明けに帰郷した際、そう実感できるある

出来事がありました」

「(山口)宇部空港で、1人の若者が私を待っていてくれました。県内の児童養護施設で育ったその若者は、この春から青山学院大学の理工学部に進学が決まった。そのことを私に報告してくれました。昨年から私たちは、卒業してからも返済不要の給付型の奨学金制度をスタートしました。経済的に厳しい状況にある子供たちには、大学の授業料を減免する取り組みも5年かけて拡充してきました。こうした学費免除と給付型の奨学金を得ることで大学への進学がかなったと、うれしそうに語ってくれました。そして『卒業後は、エンジニアになって、自動車の完全自動運転を実現させたい』。こう将来の夢を力強く語ってくれたんです。『春からは初めての土地で頼るものもない不安もありますが、皆さんにいただいたこのチャンスを生かし、夢に向かって全力を尽くしていく』。彼がくれた手紙には支えてくれた人たちへの深い感謝と、だからこそ、そうした人々を裏切ることがないよう、夢に向かって頑張るという強い決意がつづられていました。私も背筋が伸びるような思いがしました。子供たちの誰もが分け隔てなく、夢に向かって頑張ることができる。そうした社会をつくるのが、私たち大人の責任ではないでしょうか」

「150年前、明治日本がなぜ、あれだけ急速な近代化を行うことができたのか。それは人材の力だと思います。

『邑(むら)に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん』。身分や貧富の差に関係なく、どんな家庭に生まれた子供でも教育を受けられる。そして、一生懸命、勉学に励めば、政治家にだって、学者にだってなれる。そうやってあらゆる国民の力を結集することで、独立を守りぬくことができたと思います」

「人づくりこそ国づくりであります。長州はずっとその先頭に立ってきました。吉田松陰先生の松下村塾で学んだ若者たちが、明治国家建設の大きな原動力になりました。

『今や、独り、山河草木のみ 旧時に異ならざるあり』。維新後、多くの人材が東京に移ったことを嘆いた最後の(長州)藩主、毛利元徳(もとのり)は、毛利家の資産を投じて明治17年、私立防長教育会を設立しました。当時、貧しさにあえいでいた士族の子供たちの教育に力を注ぐためです。私の祖父、岸信介や大祖父の佐藤栄作が通った旧制の県立山口中学校も一時、この私立防長教育会によって運営され、その後、山口県に寄付されたものです。一貫して子供たちへの投資を惜しまなかった。そのことによって長州は、戦前戦後を通じて、各界で活躍する人材を輩出することができたのではないかと思います」= (2) に続く

産経新聞 2018.8.13 22:25 更新

【長州「正論」懇話会設立5周年記念】安倍首相講演詳報
(2)「5年前の重く暗い空気は、アベノミクスによって完全に一掃できた」

「今も厳しい環境にある子供たちがたくさんいます。両親の離婚や失業などで家庭の経済状況が悪化し、勉強したくてもできない子供たちがいます。親の虐待により、命すら危険にさらされている子供たちもいます。しかし、子供たちは親を選ぶことはできない。生まれた家庭の事情によって、子供たちの未来が左右されるようなことはあってはなりません。その強い思いのもとに、この5年間、安倍内閣は全力で取り組んでまいりました」

「政権交代前、8割台にとどまっていた生活保護世帯の子供たちの高校進学率は、初めて90%を超え、直近では93%までアップしています。1人親家庭では、大学への進学率が24%から42%まで上昇しました。いわゆる子供の貧困率も低下しています。景気が低迷するなか、1999（平成11）年の調査開始以来、ずっと上昇してきました。最初は9・2（%）、そしてその5年後には9・7。そしてさらにその後の5年後には9・9。ずっと、子供の相対的貧困率は悪化してきたんです。ですから、よく予算委員会では『自民政権が進めてきた経済政策によって、ずっと子供の貧困率は悪化しているではないか』こう批判されました。おそらく『安倍政権ではもっと悪化しているんじゃないか』と、こう批判されていました。でもまだ、安倍政権では、この調査はしていなかったんです」

「安倍政権になってこの調査を初めて行いました。果たしてどうだったか。9・2、9・7、9・9。一貫して悪化してきた子供の相対的貧困率は9・9から一気に2%低下して7・9になったのであります。だいぶ皆さんのイメージとは違うんだろうと思います。実際に安倍政権で格差が拡大しているということはない、ということはいくつかの数字が物語っています。もちろん、どんな世の中でも格差はある。でも、そういう格差を、固定化させてはならない」

「若い子供たちが、青年たちが、自分たちの努力や情熱で未来を切り開いていくことができる。家庭の経済状況ですべてが決まることがない、という世界を、日本を作っていく。常にその努力をしていかなければならない。もちろんこれで十分だとは私も思っておりません。すべての子供たちが希望する教育を受けることができる。それだけでなく、一度チャンスを失っても、またいつでも教育を受けられる。頑張れば、自分の力で何度でも未来をつかみ取ることができる。そうした社会に向かって、日本は今、大きな変化を遂げようとしています」

「皆さん、やればできるんです。下関国際高校もやってくれました。10年前、部員はたったの5人で、地方大会すら出られなかった。チームは2年連続で甲子園に出場し、悲願の初勝利を成し遂げました。リードされても追いつき、前田（晋太郎）市長も応援に行ったそうではありますが、多少、その応援も効いたのではないのかなと思います。9回の土壇場で追いついて、そして延長10回、見事な逆転勝利を得ました。最後の最後まで諦めなかったからこそ、

つかみ取ることができた勝利だと思います。もちろん、私は日本国の総理大臣でありますから、地元のチームだけを応援しているわけではありませんが、そうはいつても、頑張っ勝ってもらいたいと思います。どんなに高い壁も必ず打ち破ることができる。すべては私たちの意志にかかっています」

「6年前、『人口が減少する日本はもう成長なんかできない』。いや、『もう成長しなくても良いんだ』。民主党政権の下、『諦め』という名の高い壁が皆さん日本を覆っていたんです。行きすぎた円高で、企業はどんどん海外へ出ていった。中小事業者の皆さんは一緒について行くことができせんから、工場やお店を閉じるしかなかったんです。『連鎖倒産』という言葉が日本を覆っていました。若い人たちも、どんなに努力しても就職先を見つけない、本当に厳しい時代でした」

「その大きな危機感に背中を押され、私たちは政権交代を成し遂げ、経済最優先を掲げ、三本の矢を力強く放ってきました。『過去20年間、日本を見てきたが、アベノミクスの4年半ほど、日本でスピード感のある改革が進んだことなかった』。昨年9月、世界の金融の中心地・ニューヨークで講演を行った際、ある外国人投資家がこう語ってくれました。そして、国際的な評価の高さが、現在の株価にもつながっています」

「『株なんかあがっても、持っていないから関係ない』という方がおられると思います。しかし、持っていない方もですね、ぜひ聞いていただきたいと思うんですが、皆さんの大切な年金は、株で運用しています。年金資産はこの5年半で、53・6兆円も増加しました。つまり、株が高くなったことで年金の財政は強固なものとなったのです。人口が減少するなかで、名目GDPは11・8%成長し、58兆円増加し、過去最高を記録しました。人口が減少する中で私たちは、経済を成長させ、過去最高を記録することができたんです。中小企業の倒産は、政権交代前から3割減少し、この27年間で、最も少なくなっている」

「正社員の有効求人倍率も統計開始以来、過去最高です。私たちが政権を取る前、正社員になりたい人100人に対して、たった50人分しか正規の仕事はなかった。しかし今、2倍以上、100人の正規雇用を望んでいる求職者に対して、113人分の正社員の仕事がある状態です。就業地別で見ると、山口県では最も高く131人分もあるんです。まさに、1人の『正社員になりたい』という求職者に対して、それ以上の正規の雇用があるという、まっとうな社会を私たちは作り上げることができたと思います。『まっとうな政治』ということをスローガンにされている某政党があるようですが、『まっとうな政治』とは、このよう社会をつくることではないでしょうか」

「この春、高校大学を卒業した若者たちの就業率は過去最高水準となりました。山口県でも6月から、来春卒業す

る高校生の求人受付が始まりましたが、1カ月で5千人を超える求人がありました。これは過去最高、政権交代前のなんと5倍の勢いであります。5年連続、今世紀で最も高い水準の賃上げが実現しています。4年前、山口銀行の頭取から『ベースアップをしようとしたら、あまりに何年も行っていなかったので、給与システムが対応していなかった』という話をうかがいました。おそらくその後も、ベースアップを行ってくださっているなら、あのシステム投資は無駄にはならなかったはずであります。そうですね？」

「本年は、経団連の幹部企業への調査で、4分の3以上の企業が年収ベースで3%以上の賃上げを行いました。これは大企業だけではありません。連合の調査では、中小企業の賃上げ率は、過去20年で最高になっています。山口県でも平均の賃上げ率が、調査開始以来初めて2%を超えました。政権交代選挙で『失われた国民総所得50兆円』を取り戻すとお約束をしました。『そんなことはできるはずがない』との批判の嵐でありましたが、私たちは実現しました。5年余りで、50兆円どころか、65兆円以上増えています。皆さん、まさに、日本人はやればできるということを証明したと思います」

「5年前に日本を覆っていた重く暗い空気は、アベノミクスによって完全に一掃することができた。20年近く続いたデフレからの完全脱却に向け、今日本は確実に前進しています。経済が成長すれば、税収も増えます。この5年間で、国、地方あわせ、24兆円増えました。昨年度の国の税収は、58・8兆円。過去最高の60・1兆円も視野に入ってきました」

「地方の税収はどうか。かつて、バブル経済のときにはほとんどまさに東京、大阪、そういう大都市だけが、税収が増えていましたが、今やそうではありません。地方の税収は40・9兆円で過去最高になりました。今日は福岡の市長も来ておられますが、福岡県も5年連続、税収が大きく増えている。そういうお話であります。下関も当然増えておられます。アベノミクスの果実を使って、安倍内閣は、民主党政権時代の2・5倍のペースで、5年間で59万人分の保育の受け皿を整備しました。その結果、女性就業者は200万人増加し、今や25歳以上の全ての世代で女性の就業率は、あのアメリカを上回っています」 = (3) に続く

産経新聞 2018.8.13 22:29 更新

【長州「正論」懇話会設立5周年記念】安倍首相講演詳報
(3)「拉致問題は私自身が金正恩氏と直接向き合い、わが国が主体的に解決」

「本年4月、私は『日本経済を蘇生(そせい)させた人』として、アメリカの雑誌『タイム』が選ぶ『世界で最も影響力のある100人』に選ばれました。実は4年前にも選ばれていたんです。おそらくみなさん、全くご存じないん

だろうと思います。私もよく覚えてません。そのことを、いかにも自慢したいような感じではありますが、自慢したいわけでは全くありません。選ばれると誰かが、その人物について文章を書くのですが、今回はオーストラリアのターンブル首相が寄稿してくれました。その中で『米国が抜けた後、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)が息を吹き返したのは、日本の力だ』と高く評価してくれたのです。わが国がTPPのような多くの国が参加する協定づくりを主導したのは、戦後70年以上の歴史でおそらく、初めてではないでしょうか」

「これは産経新聞が私を褒めているのではなく、『タイム』が褒めているところでもあります。米国の離脱後、空中分解の恐れもありましたが、『世界的に保護主義の懸念が高まる中で、自由で公正なルールに基づく貿易の重要性を世界に向けて発信すべきだ』。こうしたわが国の考えに他の国々から賛同を得て、わずか1年で署名にたどりつくことができました。EU(欧州連合)との経済連携協定(EPA)も5年の交渉を経て、先月、署名に至りました。人口6億人、世界経済の3割を占める大きな市場に、自由で公正なルールに基づく経済圏が誕生する。日本と欧州の関係がここまで緊密になったことも、かつてなかったと思います。わが国はこれからも自由貿易の旗手として、新しい時代の経済、秩序づくりを主導していく決意です」

「通商交渉ですから、当然、国益と国益がぶつかりあい、決裂寸前の厳しい局面も訪れます。最後は首脳同士がどれだけ相手を信用できるか。決め手は『信頼』だと思います。2カ月ほど前、カナダで開かれたG7サミット(先進7カ国首脳会議)では貿易をめぐる激論となりました。全ての行事が終わった後の夜遅く、急遽(きゅうきょ)、ラウンジに7人の首脳が集まり、ひざ詰めで本音をぶつけあいました。白熱した議論の最中、突然、トランプ大統領が『シンゾーはどう思うんだ。私はシンゾーの意見を聞きたい』。こうやってきたんですね。私もちょっとびっくりしました。私は即座に『G7として、自由で公正なルールに基づく貿易システムを発展させるため、努力する、との立場を確認すべきだ』と申し上げました。最終的に、このラインでG7の首脳宣言が作成されました。誰にとっても、100%満足な文章ではなかったかもしれませんが、でも『これでいい』と飲み込んでもらいました。これまでトランプ大統領とも、ヨーロッパの首脳たちとも何度も会談を重ねてきましたが、その信頼関係のなせる技だったと思います」

「日本は、アジアで唯一のG7メンバーです。同時に長年、東南アジア、インド、中東諸国など太平洋からインド洋へ至る、地域の国々と、深い信頼関係を築いてきました。戦後、焼け野原から、世界第3位の経済大国を築き、ひたすらに平和国家としての道を歩んできました。日本こそが、世界を平和と繁栄へ導く架け橋となる。その決意の下、わが国は今後も不断の努力を重ね、世界から信頼される国、

尊敬される国とならなければいけないと考えています」

「トランプ大統領とはわずか1年半の間に、7回の首脳会談、20回を超える電話会談、さらには3回のゴルフを重ねました。かつて私の祖父、岸信介と、ゴルフをプレイしたアイゼンハワー大統領は、こう語ったといひます。『大統領になると嫌なやつとも、笑いながらテーブルを囲まなければならないが、ゴルフだけは好きな相手とでなければできない』。実際、交渉の会談は長くても1時間程度ですが、ゴルフとなれば世界で最も忙しいアメリカ大統領と4時間近くもともにできる。毎回、本音のやり取りができる貴重な機会になっています」

「アメリカは、日本が攻撃されたとき、共に戦ってくれる唯一の同盟国です。どの大統領ともしっかり信頼関係を築くことは、日本の総理大臣の最も重要な責務の一つです。幸い、トランプ大統領とは今、お互いに何でも話し合える関係を築くことができていると思っています」

「これには3年前、平和安全法制が成立したことが大きい。互いに助け合えることができる同盟は当然その絆を強くします。昨年、北朝鮮が相次いでミサイル発射などを強行していたころ、この法制に基づき米艦防護も実施しました。自衛隊がアメリカの艦隊を守る。現場レベルでの連携や相互の信頼関係を含め、日米同盟はかつてなく強固なものとなっている。そのことは自信をもって申し上げることができます」

「それにしても、これだけ連日、日本のマスコミで取り上げられる米国大統領もかつてなかったと思います。大胆な内容のツイッターには世界中が驚かされる毎日です。昨年の秋、大統領が来日した際、宿泊しているホテルから夕食会まで、大統領の車両にご一緒させていただきました。沿道から手を振る人たちを見て、大統領がこう言いました。『あの人たちは、シンゾーに手を振っているのか？ それとも私に手を振っているのか？』。私はこう言いました。『これは大統領車ですから、星条旗がたなびいていますよね。当然、大統領に手を振っているんですよ』。そしたら大変喜んで、うれしそうに自分の姿が外から見えるように突然、車の電気を付けたんです」

「大統領車というのは（窓に）強いスモークがかかっていますから、夜はほとんど中は見えない。ですから、自分たちがあちらから手を振っているんだから、中の電気を付けてみえるようにしようと。こうこうと照らしました。大統領といえばセキュリティが世界一厳しい。どの車に乗っているか。大統領車は2台あり、どっちに乗っているか分からないようになってきている。でも、ライトをつければ、どっちに乗っているか明確になってしまう。もうシークレットサービスが大変焦って、こういう（×のジェスチャー）サインを送りました。おそらく電気を消してくれという意味ですね。しかし、大統領は無視して、ずっと手を沿道に振り続けていました」

「そういう意味においては、大変サービス精神にあふれている大統領といってもいいんじゃないかと思います。トランプ大統領には、これまでの常識なんて通用しません。しかし、だからこそ、前例にとらわれず、大胆な決断ができるリーダーでもあると思います。6月には歴史的な米朝首脳会談が行われました。米国大統領と朝鮮労働党委員長という2人の首脳がサインをして、文書を発出した。この意義は大変大きいと考えています。北朝鮮はこれまで、1994年の米朝枠組み合意、2005年の6者共同声明にかかわらず、国際社会の努力をことごとく裏切ってきました」

「しかし、これらはトップレベルの合意ではありませんでした。だから破ってよいわけではもちろんありません。首脳間の合意でなかったゆえに簡単にほごにされてきた面があります。他方、日朝平壤宣言は当時の小泉（純一郎）総理、金正日（キム・ジョンイル）国防委員長がサインをした文書であり、北朝鮮もこれをなかつたことにはできない。日朝の交渉を始める際、間違いなくその土台となる文書であります。ですから、私は4月の日米首脳会談の際に、トランプ大統領に『サインをする文書を残してください』と話したんです。今回の共同宣言は北朝鮮の完全な非核化に向けて、大きな土台を作ったと考えています」

「ここに至るまで、北朝鮮がミサイル発射や核実験を強行する中で、トランプ大統領も異例の空母3隻を日本海に展開させるなど、その軍事力を北朝鮮に見せつけています。最強の軍事力を持つ、米国の大統領がサインをした。その重みは相当なものがあると思います。そうした前提の上にトランプ大統領は相互不信の殻を打ち破り、相互の信頼を醸成することで共に問題を解決するという新しいアプローチを取ったということだと思います」

「そこで、わが国にとって最も重要な拉致問題についてですが、先般、（拉致被害者の）有本恵子さんのご両親からお手紙をいただきました。お年を重ねられる中で切実な思いがつつられていました。（横田めぐみさんの父の）横田滋さんのお見舞いにもうかがい、早紀江さん、拓也さん、哲也さんからもお話をうかがい、ご家族の皆さまがご高齢になられながら、いまだ問題が解決できないということは私にとって痛恨の極みです」

「しかし、私は安倍政権でこの問題を必ず解決するという強い決意で臨んでいるんです。米朝会談でトランプ大統領から私の考えは明確に金正恩（ジョンウン）朝鮮労働党委員長に伝えていただきましたが、最後は私自身が金正恩委員長と直接向き合い、わが国が主体的に解決しなければならない。そう考えています」

「北朝鮮には豊富な資源、勤勉な労働力があります。正しい道を歩めば、明るい未来を描くことができる。その前提が、拉致、核、ミサイルの諸問題の解決です。わが国として不幸な過去を清算し、国交正常化を目指すとの方針は

揺らぎません。その上で、共に北東アジアの平和と繁栄を築き上げていきたい。私もまた、相互不信の殻を打ち破り、問題の解決を目指す決意であります。そのためにも米韓両国との一層緊密な協力に加え、中国、ロシアをはじめ国際社会との連携も欠かせません」＝(4)に続く

産経新聞 2018.8.13 22:32 更新

【長州「正論」懇話会設立5周年記念】安倍首相講演詳報 (4)「今こそ『戦後日本外交の総決算』を成し遂げるときだ」

「日中関係は昨年11月、習近平国家主席とベトナムのダナンで首脳会談を行い、まさに新しいスタートを切りました。5月に李克強首相が8年ぶりにわが国を公式訪問し、10年来の懸案だった海空連絡メカニズムに合意するなど、多くの成果を得ました。首脳間の往来を通じ、日中関係を新しい段階へと押し上げていきたいと考えています」

「太平洋からインド洋にいたる広大な地域を、自由で、誰でもオープンなものとして、私が掲げた『自由で開かれたインド太平洋戦略』を今、米国をはじめ多くの国が強く支持してくれています。日本の外交安全保障戦略を米国が取り入れるようなことは初めてではないかと思えます」

「冷戦終結後も北東アジアにおいては北朝鮮問題をはじめ、戦後の枠組みが長年、そのままになってきました。日本がリードして、この自由で開かれたインド太平洋戦略の下、新しい時代の北東アジアの平和と繁栄の礎を築かなければならない。今こそ『戦後日本外交の総決算』を成し遂げるときだと考えています」 「最大の課題の一つが日露の平和条約交渉です。一昨年、私のふるさと長門にプーチン大統領をお招きしました。合計5時間、そのうち95分はたった2人だけで踏み込んだ議論を行いました。そして、長門の地で平和条約問題の解決に向けた真摯(しんし)な決意を共有しました。あのとき合意した、元(北方四島)島民の皆さんの飛行機を利用したお墓参りも今年で2年目になります。四島での共同経済活動も新しい段階に入ろうとしている。長門合意を一つ一つ着実に実現に移すことで、領土問題を解決し、戦後70年以上解決されないままの平和条約の締結を目指したい。そして、ロシアとは世界のさまざまな課題の解決に共に協力する関係を築き上げていく。日露の新時代を切り開いていきたいと考えています」

「長門では、プーチン大統領が、山口県のお酒『東洋美人』を大変気に入っていただき、記者会見で『ぜひ、お勧めします』とまでおっしゃいました。そうすると、売り切れ続出という事態が発生したそうでもあります。長門の湯本温泉にも最近、ロシアからの観光客が訪れるようになったそうでもあります」

「日本を訪れる外国人観光客は、政権交代前、年間800万人ほどで頭打ちでした。しかし、安倍内閣は観光立国に力を入れ、5年連続で過去最高を更新しました。今年は

上半期だけで、すでに1600万人に迫り、いよいよ3000万人時代に突入しました。今、旅行ニーズは、その場でしか経験できない体験型に変わりつつあります。おいしい地酒に、美しい自然。それぞれの特色を持つ地方にとっては大きなチャンスです」

「地元の油谷町には元乃隅稲成神社という123基の赤い鳥居が海に向かってずっと続いていく神社があります。実は私、今日初めて、この神社の中に入りました。何回も紹介させていただいているんですが、告白しますと、入ったのは私初めてであります。その前は何回も通ったことはありますが。以前は年間数百人、多くても数千人の参拝客しか訪れなかった場所が、3年前にCNNで紹介されたところ、『インスタ映えする』と評判になり、昨年はなんと皆さん、100万人が訪問したそうでもあります。さい銭箱には、そう、さい銭箱はずいぶん高いところにあるんですね。入れるのが難しいんです。今日もさい銭箱に入れようと思って投げたんです。届かない。100円玉で届かなかったので、今度500円玉で。それが作戦かなと思う人もいます。結局入りませんでしたね。そのさい銭箱には25カ国のコインが入っていて、神主さんも大変びっくりしたそうでもあります」

「近所の道の駅も、地元の農産物がよく売れるようになりました。店で働くお年寄りも今、スマホの翻訳アプリを使おうと奮闘しておられるそうです。方言がきついと、さすがの人工知能も対応不能かもしれませんが、観光客の増加で地域全体の活力を生み出している。観光を地方創生の大きな起爆剤とする。2020年、4000万人の大台を目指してさらに施策を強化してまいります」

「おいしくて安全な日本の農林水産物も外国人には大人気です。萩特産の千石台大根は、3年前から香港に輸出されるようになりました。甘みがあり、煮崩れしにくい。煮崩れというのは荷物が崩れるのではなくて、煮ても崩れない。煮崩れしにくいダイコンは香港で1本400円。国内の倍の値段で売れているそうでもあります。自動洗浄機も導入し、白さを増すことでさらに付加価値を高めています。農家の収入は3割増えました。そうした中で最近、若者が5人もUターンしてきた。ブランド化など、新しい取り組みにもチャレンジし、いい環境が生まれています」

「農業は国の基であります。農家のみなさんの手はごつごつしている。それは大地と触れ合い、厳しい自然と立ち向かってきたからであります。山を保ち、水を勧誘し、美しい伝統、田園風景、伝統ある故郷を守ってきたのが農業です。しかし今、農家の平均年齢は66歳を超えています。未来に向かって農業を守り抜くためにこそ、今、改革しなければならない。その思いの下に60年ぶりの農協改革、農地バンクの創設、減反政策の廃止など、戦後以来の大改革に取り組んでおります」

「先の国会では、林業改革に向けた法律も成立し、次は

水産業改革にも挑戦する考えです。そして今、農林水産物の輸出は、5年連続で過去最高を更新し、昨年は8000億円を超えました。生産農業所得は3・8兆円となり、この18年間で最高となっています。日本のおいしい米は国内では、1俵2万5000円ほどですが、中国に持っていけば9万円前後で売れます。もちろん、日本では1万円台のものもあるんですが、中国に持っていけば9万円前後で売れる。消費量も中国だけで年間1億6000万トン。日本の生産量の20倍を消費している。日本人が食べているお米の量はせいぜい700万トンか800万トン。いかに大きな消費量かということがご理解いただけると思います。世界に目を向ければ、農家の手取りをもっともっと増やすことができるはずですよ。先般の李克強首相の訪日の際に、中国向けの精米輸出に使用できる施設について、精米工場2施設、くん蒸倉庫を5施設を新たに追加することで合意し、政府としても輸出量の増大に取り組んでいます」

「最もうれしかったのは、先日、最新データが出ましたが、40代以下の若手新規就農者が調査開始以来初めて4年連続で2万人を超えたことであります。若者が夢や希望を持って飛び込んでいくことができるような、若いみなさんが、自分たちの人生、未来を、農業にかけることができる。そういう農業へと改革を進めていく決意であります。未来と世界に目をこらしながら、農林水産新時代を切り開いていきたいと考えています」

「地域経済を支える中小・小規模事業者のみなさんは、深刻な人手不足に直面しています。それにもしっかりと手を打ってまいります。生産性を向上するために新しい機械設備を導入する。そういうみなさんには固定資産税をゼロにする、かつてない制度を導入しました。ものづくりの補助金や持続化補助金による支援を力強く進めていきます。同時に一定の専門性、技能を有し、即戦力となる優秀な外国人材を幅広く受け入れる、新しい在留資格を来年4月を目指し創設する考えです。これはいわゆる移民政策ではありません。そのことははっきりと申し上げたいと思います。在留期間の上限を設定し、家族の帯同は認めないなど前提条件を設ける考えです。法務省の組織体制を抜本的に見直し、在留管理を適切に実施します。さらには、日本人と少なくとも同等の給料を支払うこととします」

「先日、ベトナムのクアン国家主席が来日され、群馬県のある中小企業で働いているベトナム人を激励されました。そのときの様子を私に話してくれたのですが、ベトナムの青年が日本人と同じ給料をもらっていることに大変驚いたそうです。そして『彼はそのことを誇りにして頑張っている。日本は本当に素晴らしい』とおっしゃっていました。これは日本にとっての誇りではないでしょうか。日本にきて働いた外国人の皆さんが、日本にきて働いてよかったと思ひ、母国で活躍する。これはわが国にとっても、大きな資産になると思います」

「先般の平成30年7月豪雨では、たくさんの方がお亡くなりになりました。改めてご冥福をお祈りします。被災地を視察し、河川の氾濫や土砂崩れの現場を目の当たりにし、自然災害の脅威を実感しました。前の政権の時代、『コンクリートから人へ』といったスローガンが叫ばれた。河川の改修や治水事業、砂防ダムの建設、ため池の維持改修など、まるで公共事業全てが悪いように批判されていました。実際、これらの予算は大幅に削られてしまいました。もちろん無駄遣いは決してあってはなりません。しかし国民の命を守る、防災や減災に必要なインフラまで削ってはならない。安倍内閣は国土強靱（きょうじん）化に取り組んできました。ため池の維持、補修などにも活用できる土地改良予算も、民主党政権で大きく削られましたが、以前の規模まで回復してきました」

「熱中症が相次ぐほどに、猛暑になったかと思えば激しい雨が降る。集中豪雨の量とスピードは従来とはまったく違う次元です。地球規模で温暖化が大きな問題となっていますが、こうした気象の変化にしっかりと対応していかなければならない。減災・防災の観点から、河川の浚渫（しゅんせつ）なども含めて、安心な暮らしを確保するための対策を全国的に早急に講じる必要があると考えます」=（5）に続く

産経新聞 2018.8.13 22:37 更新

【長州「正論」懇話会設立5周年記念】安倍首相講演詳報
（5）「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべき」



長州「正論」懇話会設立5周年記念講演会で講演する安倍晋三首相＝12日午後、山口県下関市（奥清博撮影）

「西日本豪雨の発災以来、最大で3万1000人を超える自衛隊の諸君が、行方不明の捜索、大量に流れ込んだ土砂やがれきの撤去、炊き出しや入浴などの被災者支援に当たってきました。今も連日猛暑が続く過酷な現場で、被災者の皆さんのため、黙々と献身的に任務を全うする彼らは日本国民の誇りです」

「毎年、防衛大学の卒業式に出席し、服務宣誓を受けますが、最高指揮官、内閣総理大臣として、真新しい制服に袖を通したばかりの自衛官たちから『事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負

託に応える』との重い宣誓を受けます。そうです。まさに彼らは国民を守るために、その命を懸けるんです」

「しかし、近年でも『自衛隊を合憲』と言い切る憲法学者はわずか2割で、違憲論争が存在しています。その結果、多くの教科書に自衛隊の合憲性に議論があるとの記述があり、自衛官の子供たちも、その教科書で勉強しなければなりません。ある自衛官は息子さんから『お父さん、憲法違反なの？』と尋ねられたそうです。そのとき息子さんは、目に涙を浮かべていたと言います」

「皆さん、このままでいいんでしょうか。こんな状況に終止符を打つ。全ての自衛官が誇りを持って任務を全うできる環境を整えることは、今を生きる私たち政治家の責任であります。憲法の中にわが国の独立と平和を守ること、そして自衛隊をしっかりと明記することで、私はその責任を果たしていく決意であります」

「こうした思いの下に昨年の総選挙でわが自民党は初めて、選挙公約の柱、主要項目の1つとして憲法改正を位置づけ、自衛隊の明記など4項目を具体的に掲げました。教育の無償化もその1つです。先ほども申し上げましたが、明治の近代化、さらには戦後の焼け野原からの復興。日本はこれまで数々の困難に直面しながらも、そのたびにそれらを見事に乗り越えてきた。すべては日本人の力でありま

ず。人づくりこそ、国づくりです」

「戦後憲法に普通教育の無償化が明記され、そこから小中学校9年間、義務教育制度がスタートしました。しかし、70年以上が経過し、経済も社会も大きく変化しています。子供たちがそれぞれの未来を、それぞれの夢を追いかけるためには、高等教育もまた、全ての国民に真に開かれたものでなければなりません。そうした思いの下に昨年の総選挙で、大半を借金返しに使うことになっていた消費税の使い道を大きく見直すことを訴え、幼児教育の無償化と合わせ、真に必要な子供たちの高等教育の無償化に踏み出すこととしました。これは未来を見据えた、まさに国家百年の計であります。だからこそ、国の形、理想の姿を示す。憲法の中にしっかりと書き込んでいくべきであると、私はそう考えています。約束したことは必ず守る。実行に移すのが自民党であります」

「本年の党大会では党の運動方針として、公約に掲げた4項目の議論を重ね、憲法改正案を示し憲法改正の実現を目指す。その方針を決定しました。そして、これに従って意見集約に向けた党内議論が精力的に行われてきました。私の初当選は25年前、宮沢喜一総理・党総裁の下、自民党が初めて下野した選挙です。政治人生のスタートは野党からでありました。しかし、自民党は長年、日本の背骨を担ってきた責任政党として、常に政策を磨き上げ、どんなに苦しくとも責任を持って結論を出し、そして果敢に実行することで結果を出す。その矜持(きょうじ)があったからこそ、2度の野党時代を経験しても大きな分裂もなく、乗り越えてくることができました」

「いつまでも議論だけを続けるわけにはいきません。これまでの活発な党内議論の上に、自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきであると考えています」

「来月には総裁選がありますが、憲法改正は立党以来の党是であり、全ての党員の悲願でもあります。そして、昨年の総選挙での公約実現を目指すことは、自民党としての責任でもあります。誰が総裁になろうとも、その責任を果たしていかなければなりません」

「憲法改正には衆参両院で3分の2を得て発議し、国民投票において過半数の賛成を得るという極めて高いハードルを乗り越える必要があります。政治は結果であり、どのように幅広い同意を得て憲法改正を実現するか。来る総裁選が党員の間で、しっかりと議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待しています」

「さて、9カ月後には天皇陛下のご退位、皇太子殿下のご即位、皇位継承という歴史の大きな節目を迎えます。国民の皆さんが、わが国と皇室の長い伝統と歴史に思いを寄せ、こぞって寿(ことほ)ぐことができるよう、そして世界の方々から祝福されるよう、政府として万全の準備を進めていく考えです」

「その直前にはG20(20カ国・地域)サミットを開催し、トランプ大統領、プーチン大統領、習近平国家主席をはじめ、世界中の主要なリーダーたちを日本にお迎えします。国際社会が直面するさまざまな問題の解決について話し合い、新しい時代に向かって共に歩み出す。そうしたサミットにしたいと考えています。さらにラグビーワールドカップ、そして、2020年の(東京)五輪・パラリンピック。世界中の注目が日本に集まる。まさに、時代の転換点を迎えようとしています」

「平成の時代が幕を開けたころ、日本の高齢化率は11・6%でした。あの『失われた20年』。長引くデフレで景気が低迷を続け、自民党が初めて下野した。あの総選挙以来、さまざまな政党が生まれては離合集散を繰り返し、不安定な政治の下で本格的な改革はずっと先送りされてきました。そして今や高齢化率は27・7%。この30年弱の間に、16%以上アップしました。子供の出生数も年間100万人を下回り、30万人減少。手をこまねいているうちに少子高齢化が一気に進みました。しかし、この5年間の改革によって、日本経済は今、着実な回復軌道を進み、5回の国政選挙によって、自公政権は国民の皆さんから安定的な政治基盤を託していただきました。あの『失われた20年』は、もはや過去のものになりました。小手先の対応はもう不要です。未来を見据えた、改革を進める準備は整いました。平成のその先の時代に向かって、今こそ動き出すべきときです」

「社会保障を全世代型へと改革していかなければなりません。未来を担う子供たちに大胆に投資する。そして高齢

者の皆さんも力強く応援していく。半世紀前、65歳以上の高齢者の就業率は33%を超えていました。しかし、今、足下で上昇しているものの、23%になっています。今日も、元気あふれる先輩方がたくさんいらっしゃっていただいています。今の65歳は50年前で言えば50代、いや40代ぐらいの若さではないでしょうか。ですが私は63歳ですから、まあ53歳から45歳くらいだと思っています」

「その観点からいえば、この会場はだいたい30代、40代の皆さんしかいない。そんな感じがします。働く意欲のある皆さんには、いくつになっても元気で生涯現役。そんな社会をつくっていくことも必要です。子供たちから子育て世代、そして高齢者の皆さんまで、すべての世代が安心できる社会保障制度を構築していきます。若者が、夢や希望をもって飛び込むことができる地方を創り上げてまいります」

「少子高齢化を踏まえ、地方の行政体制、財政、税制のあり方も考える必要があります。防災・減災によって強靱な地方をつくり上げることも喫緊の課題です。美しいふるさとを守り抜き、次の世代へとしっかり引き渡してまいります。さらには、戦後の日本外交の総決算を行う。自由で開かれたインド太平洋を永遠に守りながら、新しい時代の東アジアの平和を繁栄の礎を築きあげたいと考えています」

「やればできる。そう信じ、いかなる困難に直面してもチャレンジを続けてきた先人たちの志を私たちはしっかりと受け継ぎながら、今こそ、平成のその先の時代を切り開くときだ。私はこう考えています。明治維新胎動の地である、この長州の「正論」懇話会の皆さんにも、どうかその大きな原動力になってもらいたい。そのことを最後にお願ひ申し上げて、私の講演を締めくりたいと思います。長い講演でありましたが、ご静聴まことにありがとうございました」=終わり

「次の国会に改憲案」 首相講演、総裁選の争点に

東京新聞 2018年8月13日 夕刊

安倍晋三首相は十二日、山口県下関市で講演し、改憲について「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と時期を明示した。秋の臨時国会が念頭にあるとみられる。首相は九月の自民党総裁選に関連し「党员の間で（改憲）議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待する」と総裁選での主要争点とする考えを示した。

首相は憲法への自衛隊明記に向けた「決意」を表明した上で「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と強調した。

自民党は自衛隊明記など改憲四項目の条文案をまとめているのに対し、総裁選に出馬表明した石破茂元幹事長は、九条二項を削除する全面改憲が持論だが、九条改憲を優先

しない考えを示している。総裁選では、九条の考え方が最大の焦点になりそうだ。

首相は講演で、自身の立候補正式表明の時期には触れなかった。

北朝鮮による日本人拉致問題については「最後は私が金正恩(キムジョンウン)朝鮮労働党委員長と直接向き合い、わが国が主体的に解決しなければならない」と日朝首脳会談への意欲を重ねて示した。

学校法人「森友学園」「加計(かけ)学園」問題を巡っては「国民の目線に立てば、妻や長年の友人が関わっていたのであれば、疑念の目が向けられるのは当然だ。首相という立場が周囲に与える影響を胸に刻み、慎重に政権運営にあたる」と話した。(村上一樹)

自民総裁選 憲法改正が争点に

NHK8月13日 6時07分



憲法改正をめぐる、安倍総理大臣が次の国会に自民党の改正案を提出できるよう党内議論を加速させたいという考えを示したのに対し、来月の総裁選挙への立候補を表明した石破元幹事長は、十分な議論が必要だと指摘し、総裁選挙の争点の1つとなる見通しです。

安倍総理大臣は、12日山口県下関市で講演し、憲法改正について「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と述べ、次の国会に自民党の憲法改正案を提出できるよう、党内議論を加速させたいという考えを示しました。

来月行われる自民党総裁選挙での3選に意欲を見せている安倍総理大臣は、自衛隊の存在を憲法に明記するため、憲法改正を目指す考えを重ねて示しています。

これに対し、総裁選挙への立候補を表明している石破元幹事長は、12日夜、東京都内で記者団に対し「まだ党議決定も何もしておらず、もう1度きちんと議論することが必要だ。最低限、党議決定のプロセスが必要だと思う」と指摘しました。

また、石破氏は「自衛隊の明記」よりも、大規模災害に対応するための「緊急事態条項」の新設などに優先的に取り組むべきだという考えを示していて、憲法改正が総裁選挙の争点の1つとなる見通しです。

JNN13日0時00分

安倍首相、地元の講演で「改憲は立党以来の党是」

安倍総理は21日夜、地元・山口県で講演を行い、憲法改正への強い意欲を改めて示しました。来月行われる自民

党総裁選挙の争点にもなりそうです。

「憲法改正は立党以来の党是であり、全ての党員の悲願でもあります。誰が総裁になろうとも、その責任を果たしていかなければなりません」(安倍首相)

安倍総理はこのように述べ、憲法改正への強い意欲をにじませました。また、「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」として、憲法改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを急ぐ考えを示しました。

「党としても、仮に国会に提案するとすれば、まだ党議決定も何もしていない。党議決定のプロセスは最低限必要だと思います」(自民党・石破茂 元幹事長)

一方、石破・元幹事長は「憲法改正には丁寧な議論が必要だ」と強調しました。また石破氏は、自身を改憲論者とした上で、“憲法9条に自衛隊を明記しても権限などは変わらない”とする安倍総理に対し、「何も変わらない改正をすべきではない」と指摘しました。

9月に行われる自民党総裁選が安倍総理と石破氏の一騎打ちの見通しとなる中、憲法改正が争点の一つとなりそうです。

自民党総裁選の安倍 vs 石破 「憲法改正」議論活発に ANN2018/08/13 05:55

来月に行われる自民党総裁選挙を控え、憲法改正の議論が活発になっています。12日に安倍総理大臣、石破元幹事長ともに持論を展開しました。

安倍総理大臣：「憲法改正は立党以来の党是であり、すべての党員の悲願でもあります。誰が総裁になろうとも、その責任を果たしていかなければなりません」

安倍総理は、憲法改正を争点にすることで再選後の改正論議に道筋を付ける狙いです。自衛隊を違憲とする考えに対して9条2項の「戦力の不保持」は変えず、3項で自衛隊を明記する改正案を主張しています。一方、石破元幹事長はBS朝日の番組で安倍総理の改正案に反対の立場を示しました。

石破元幹事長：「(安倍総理の改正案は)論理的には、私は決して整合していると思わないし、国民の深い理解によっていると思わない。2つの点でやり方にも内容にも賛成できない」

安倍首相の改憲姿勢を批判＝古賀氏

古賀誠元自民党幹事長は13日のBS番組で、憲法改正に積極的な安倍晋三首相の姿勢について「首相が憲法改正、特に9条を最優先のごとく議論するのは本末転倒だ。憲法は国民のもので、非常に不安を持つ」と批判した。

一方、靖国神社に東条英機元首相らA級戦犯が合祀(ごうし)されていることについて、合祀前の状態に戻す「廃祀(はいし)」を主張。古賀氏はA級戦犯の分祀を持論として

いたが、「靖国神社は分霊しても魂は残ると言う」と語った。(時事通信 2018/08/13-22:20)

産経新聞 2018.8.13 22:58 更新

古賀誠・元自民幹事長「自衛隊の明記不要」

古賀誠元自民党幹事長は13日のBS11番組で、憲法改正論議をめぐる、安倍晋三首相(党総裁)が意欲を示す憲法9条への自衛隊明記は不要だとの認識を示した。「自衛隊の存在は、国民の多くが認めている。合憲か違憲か(という論争)のために書いておくのは間違いで、必要はない」と述べた。「最高権力者の首相が9条改正が最優先かのごとき議論をするのは本末転倒だ」とも指摘した。

竹下氏、石破氏支持を表明...県議らに協力要請

読売新聞 2018年08月13日 21時58分

自民党の竹下総務会長は12日、9月の党総裁選で石破茂・元幹事長を支持する意向を明らかにした。地元の島根県出雲市で行った県議らとの非公開の会合で表明し、協力を要請した。

出席者によると、竹下氏は党内の支持が安倍首相(党総裁)に偏ることの弊害を指摘し、「大政翼賛会にしてはいけない。来年の統一地方選、参院選で必ずしゅ返しを食らう」などと訴えたという。報道機関の世論調査で内閣を支

きっこう

持しない割合が支持率と拮抗する中、首相が総裁選で圧勝した場合、世論の反発を招いて選挙で苦戦しかねないとの懸念があるとみられる。

竹下氏が率いる竹下派(55人)は事実上の自主投票を決めており、衆院議員(34人)の多くは首相を、参院議員はほぼ一致して石破氏をそれぞれ支持する方向となっている。竹下氏が態度を明確にしたことにより、石破氏支持に回る議員が増える可能性がある。

「えこひいきない政府に」総裁選 石破氏、対立軸を強調

東京新聞 2018年8月13日 夕刊

自民党総裁選に立候補表明した石破茂元幹事長は十二日のTBS番組で、安倍晋三首相の森友、加計学園問題を巡る対応を念頭に「正直、公正」な自らの政治姿勢を対立軸とする考えを強調した。「政府が国民に信用されなければ何も始まらない。(今の政府は)えこひいきがないだろうか、ということだ」と述べた。

憲法九条改憲を巡り、戦力不保持を定めた二項を維持したまま自衛隊を明記する案を首相が提起したことに関し「(二〇一二年の)自民党案と全く違う考えを突然言う。一体何なんだ。丁寧さがなければいけない」と批判した。首相が総裁選での地方票獲得を意識し、地方議員との面会を重ねていることには「日ごろからやってもらいたかった」

と皮肉った。

安倍首相 講演で「公平な行政」訴え 石破氏を意識

毎日新聞 2018年8月13日 19時06分(最終更新 8月13日 22時43分)



安倍晋三首相

安倍晋三首相（63）＝自民党総裁＝は12日の山口県下関市での講演で、自身の政治姿勢について「国家、国民のために何をなすべきか。その大義の下で行政を公平につかさどる。これは首相として当たり前の責務だ」と訴えた。

9月の党総裁選に立候補する石破茂元幹事長（61）が森友・加計学園問題などを念頭に「正直・公正な政治」を訴える構えで、首相もこれを意識した形だ。首相の政権運営や体質を巡っても前哨戦が始まっている。

首相は講演で、森友問題で妻昭恵氏の、加計問題で親友の加計孝太郎・加計学園理事長の関わりが問題視されたことについて「国民の目線に立てば、私の妻や長年の友人が関わっていたのであれば疑念の目が向けられることは当然で、意識が必ずしも十分ではなかった」とこれまで同様に反省を強調。「慎重の上にも慎重に政権運営に当たらなければならない」とも語った。

「安倍1強」と言われる政治状況に関しては「ふるさとの皆さんが一番分かっている通り、私は極めて融和的な人間だ」と笑いを誘い、「強権的なやり方なんて長続きしない」と石破氏の指摘に反論した。

一方、石破氏は12日のTBS番組で「政策は全ての人に公正であらねばならない。政府は正直にものを言っているか。証拠を書き換えたりしていないか。はっきり言えば、えこひいきがないかだ」と述べ、首相の政権運営を問う姿勢を改めて示した。12日夜には、石破派以外で唯一石破氏を支持する参院竹下派について「党への危機感があると思う」と記者団に語った。【川辺和将、竹内望】

国民代表選、津村氏が出馬表明＝「現状打破へ選手交代を」

国民民主党の津村啓介衆院議員は13日、党本部で記者会見し、9月の党代表選について「現状打破のために選手交代が必要だ」と述べ、立候補する意向を表明した。国会・地方議員の推薦人確保に関しては「自信を持っている」と述べた。出馬表明は玉木雄一郎共同代表に次いで2人目。

津村氏は「野党共闘への本気度が玉木氏との最大の違いだ」と主張。来年の参院選に向けて、他の野党と候補者の事前調整を行う「合同選対」設置を提唱した。共産党との

選挙協力については明言を避けた。獲得議席目標は「野党全体で改選議席の過半数」とした。（時事通信 2018/08/13-17:45）

国民・津村氏、代表選出馬を表明 「党勢の低迷打破」

共同通信 2018/8/13 16:56



記者会見する国民民主党の津村啓介元内閣府政務官＝13日、東京・永田町の党本部

国民民主党の津村啓介元内閣府政務官（46）は13日、党本部で記者会見し、党代表選（22日告示―9月4日投開票）への立候補を正式表明した。「前身の旧希望の党から続く党勢の低迷を打破する」と述べ、既に出馬の意向を表明した玉木雄一郎共同代表（49）の党運営を重ねて批判した。選挙戦では、野党共闘の在り方や党勢拡大策が争点となる。

津村氏は「対決より解決」の提案路線を掲げた玉木氏の手法によって、立憲民主党など他の野党との信頼関係が十分に構築できなかったと指摘。来年の統一地方選、参院選に向け、執行部を刷新した上で野党共闘を進める必要があると訴えた。

国民の津村啓介衆院議員、党代表選出馬を表明

読売新聞 2018年08月13日 19時35分

国民民主党の津村啓介衆院議員（46）（比例中国、当選6回）は13日、党本部で記者会見し、党代表選（22日告示、9月4日投開票）への出馬を正式に表明した。代表選には玉木共同代表（49）（衆院香川2区、当選4回）も出馬を表明している。

津村氏は記者会見で、争点は「野党共闘への本気度だ」と述べ、玉木氏ら執行部との違いを強調した。玉木氏が10日の出馬会見で、結党時に掲げた「対決より解決」路線を修正したことにも触れ、「何度、路線転換を重ねても、党内外の信頼を得ることはできない」と主張した。

津村氏は野党共闘の手法として、岡田克也代表が率いる衆院会派「無所属の会」と国会対策で協力する「合同国対」の設置を提唱した。玉木氏は、立憲民主党などと国会で行動を共にする「統一会派」の結成を目指す考えを示している。

国民民主代表選 玉木・津村氏対決軸に 政権「対峙」に傾く

日経新聞 2018/8/13 19:00

9月4日投開票の国民民主党の代表選をめぐり、津村啓介元内閣府政務官は13日、正式に立候補すると表明した。すでに玉木雄一郎共同代表が出馬表明しており、選挙戦は両氏の対決が軸となる。ともに2019年夏の参院選を見据えた野党共闘を訴えており、共闘の具体的な進め方が争点になる可能性がある。



国民民主代表選への立候補を表明する津村啓介氏(13日午後、党本部)

津村氏は13日、党本部で記者会見し「前身の旧希望の党から続く党勢の低迷を打破する」と表明した。津村氏の陣営には牧義夫、階猛両衆院議員らが加わる。立候補に必要な国会議員10人以上の推薦人の確保に関しては津村氏は「自信がある」と述べた。

参院選に向けて野党共闘を推進することはこれまで津村氏が強く訴えていた。ところが玉木氏は10日の出馬会見で、安倍政権に対して「対決しないと取られることもあったので修正したい。我々は解決もするし対決もする」と表明した。これを受け、津村氏は13日の記者会見で「私の一貫した主張に、玉木氏がなびいてきた」と話した。

玉木氏ら執行部は先の通常国会で「対決より解決」を掲げた。働き方改革関連法やカジノを含む統合型リゾート(IR)実施法の国会攻防では、徹底抗戦よりも与党と話し合っただけで付帯決議をまとめることを優先した。こうした戦術は立憲民主党などと食い違いを生み、国会対応で野党がぎくしゃくする一因となった。

玉木氏はこうした国会対応を振り返り「党代表選を通じ、執行部に欠けていたものを浮き彫りにし、党運営に反映させていく」と表明している。共産党を除く他の野党に、衆参両院での統一会派結成や、共同の選挙対策本部を呼びかける考えだ。「安倍政権に対峙できる野党の大きな塊をつかっていきたい」と語った。

津村氏は13日の出馬会見で、共闘の進め方について違いを強調した。津村氏はまずは岡田克也元副総理ら衆院会派「無所属の会」と合同の国会対策委員会を設置するよう提案した。立民との統一会派よりも「現実的だ」と訴えた。参院選での公認については「候補者の事前調整を徹底すべきだ」と語った。「共産党を含め、最も安倍自民党が嫌がる選挙対策をする」と述べ、共産党との選挙協力に含みを持たせた。

選挙戦では玉木、津村両氏ともに安倍政権への対決姿勢

を強める方向性を打ち出した。党幹部からは「野党共闘を口にするのは簡単だが、現実には難しい」との声が出ている。

産経新聞 2018.8.13 18:16 更新

【国民民主党代表選】津村啓介氏が正式出馬表明 玉木雄一郎共同代表と一騎打ちの公算

国民民主党の津村啓介元内閣府政務官(46)は13日、党本部で記者会見を開き、党代表選(22日告示-9月4日投開票)への立候補を正式に表明した。代表選は、すでに立候補表明している玉木雄一郎共同代表(49)との一騎打ちになる公算が大きい。

津村氏は会見で「支持率の低迷は、野党共闘への姿勢が二転三転し独自の政策発信が著しく滞ったことが主因だ」と述べ、玉木氏が執行部を重ねて批判した。

来年夏の参院選に向け、立憲民主党などとの合同選挙対策本部を置く構想を掲げ、野党勢力が改選過半数を獲得できなければ「代表を辞任する」と宣言した。

国民民主党結成に参加せず無所属となった岡田克也元副総理らの衆院会派「無所属の会」との連携にも触れ、合同の国会対策協議機関の設置に意欲を示した。

代表選は、大塚耕平共同代表ら現執行部を中心に支持を集める玉木氏が優位に立ちそうな情勢だ。津村氏は階(しな)猛政調会長代行や牧義夫元厚生労働副大臣らの支援を受ける。独自候補の擁立を模索する今井雅人国対委員長代理は、出馬に必要な国会議員推薦人10人の確保のめどが立っていない。

国民民主党の代表選挙 来月投票 党勢拡大など争点に
NHK2018年8月14日 4時29分

来月投票が行われる国民民主党の代表選挙は、玉木共同代表と、津村啓介元内閣府政務官が立候補を表明していて、党勢の拡大や野党連携の在り方などが争点になる見通しです。

国民民主党の代表選挙は、今月22日告示、来月4日投票の日程で行われ、これまでに玉木共同代表と津村元内閣府政務官の2人が立候補を表明しています。

玉木氏は「支持率が上がらない党の現状の打開が大きな責任だ」として、国会ではほかの野党と統一会派を結成することや、来年の参議院選挙に向けて共同の選挙対策本部を設置することなどを訴える方針です。

一方、津村氏は、現状を打破するためには執行部の刷新が必要だとしたうえで「野党共闘への本気度が玉木氏との最大の違いだ」と述べ、参議院選挙の候補者調整など野党間の連携をさらに強化させる考えを強調しています。

今回の代表選挙は、来年、統一地方選挙や参議院選挙が行われることもあり、党勢の拡大や野党連携の在り方などが争点になる見通しです。

JNN13 日 15 時 52 分

国民民主党代表選、津村氏が出馬表明

支持率が 0.5% と低迷する国民民主党の代表選挙に、玉木共同代表に続いて津村啓介衆院議員が立候補することを正式に表明しました。野党共闘のあり方が最大の争点となりそうです。

「本格的な野党共闘を実現し、来年の参議院選挙に向けてまして、安倍一強政治と全力で対決する」（国民民主党 津村啓介 衆院議員）

会見で津村議員は先週出馬を表明した玉木共同代表について「野党共闘への本気度がうかがえない」と対決姿勢を示しました。そのうえで、来年の参議院選挙の候補者を擁立する前に、他の野党と候補者を調整するとしてほか、統一会派を呼びかける前に、衆院の会派「無所属の会」と国会対策で連携をすべきだと述べて、野党共闘を重視する姿勢を強調しました。

国民民主党をめぐる支持率の低迷に加え、玉木共同代表が「対決より解決」を掲げて、ほかの野党と距離を置く路線をとったことに対し、党内から不満が出ています。

玉木氏は先週の会見で従来の路線を修正し、立憲民主党などに国会での統一会派の結成を呼びかける考えを示しましたが、津村氏は「路線を転換をするなら責任を明確にすべきだ」と批判しました。

民主党政権誕生（平成 21 年） 政権交代優先、抱えた矛盾 平成 Politics30

2018/8/14 2:00 情報元日本経済新聞 電子版

2009 年 8 月 30 日、鳩山由紀夫代表率いる民主党は衆院選で 300 議席を超える圧勝を果たした。「政権交代可能な二大政党」を目的のひとつとした政治改革から 20 年以上を経て、初の本格的な政権交代だった。

脱官僚依存、コンクリートから人へ、新しい公共。自民政権とはまったく異なる政策決定システムと概念を打ち出した新政権はしかし、わずか 3 年超で幕を閉じる。自民主党を否定しながら、自民党的な要素を抱え込んだ矛盾の果てだった。



歴史的勝利をおさめた 09 年衆院選で当選が確実となった候補者の名札に花を付ける民主党幹部ら

民主党政権で官房長官など要職に就いた仙谷由人氏は「たえず小沢さんに神経をつかい、たえず小沢さんに揺さ

ぶられた」と振り返る。小沢一郎氏の存在と、小沢氏との距離の取り方は「非自民」勢力にとって、常に大きなテーマだった。

兆しは 03 年、小沢氏が党首の自由党との「民由合併」の時からあった。

仙谷氏と枝野幸男氏は菅直人代表に「小沢さんは異質すぎて、必ず党はおかしくなる。小沢さんがいなくても早晚、政権交代はできる」と激しく反対した。自民党の最大派閥、竹下派の本流だった小沢氏との体質の違いを危惧したのだ。

結党以来、民主党はいま一步で政権に届かず、何か足りなかった。菅氏は現実論に重きを置く政治家だった。小沢氏が獲得していた何百万票もの比例票や東北に抱える票田……。菅氏は「政権交代を実現するには小沢氏と組むしかない」と制止を振り切った。

小沢氏は権力闘争のいわばアマチュア集団だった民主党に選挙や国会対策でプロの流儀を持ち込んだ。幾度かの浮沈を経て 07 年、参院選で民主党は第 1 党となり、政権が射程に入る。そして 09 年、政権を手中にしると小沢氏は幹事長に就く。

その後は代表選と党内闘争の繰り返しだった。鳩山内閣の退陣で小沢氏は幹事長を退き、菅首相になると仙谷氏らが政権の中枢に入って「脱小沢」を進めた。だが 10 年夏の参院選に敗北し、今度は次期衆院選での野党転落が現実味を帯びる。

小沢氏は直後の代表選に出馬し、菅陣営と小沢陣営は夜ごとの会合で票固めに奔走する。9 月 14 日の党大会。静まりかえった会場で結果が発表され、ため息とどよめきが広がった。議員票は菅氏が 206 票、小沢氏が 200 票の僅差。党員・サポーター票は 249 票対 51 票の大差だった。

亀裂は修復不能になる。東日本大震災を経て菅内閣が退き、首相が野田佳彦氏になっても対立は続く。12 年 7 月、小沢グループ約 40 人は離党届を提出する。野田内閣が進めた消費増税関連法案への反対が契機だった。

毎年の首相交代では、政権交代前の自民党と何も変わらない。野党転落は小沢氏の離党による分裂から 5 カ月後だった。

仙谷氏は「民主党政権にとって権力闘争が 1 番の問題となり、政策を訴えてもメディアの関心は政局に集まるようになってしまった」と悔いる。自民党の官僚依存とは一線を画し党内で熟議するシステムを重視したが、党内対立と相まって常に会議は紛糾。「決められない政治」にも陥った。

自民党政権を否定し、二大政党制をめざした民主党がもたらしたものの。それは皮肉にも自民党の先祖返りと「安倍 1 強体制」の長期化だった。

「翁長さん、ありがとう」葬儀に先立ち、市民ら車見送り
朝日新聞デジタル山下龍一、小宮路勝撮影 2018 年 8 月 13 日 14 時 41 分



県庁

を訪れた翁長雄志氏の位牌（いはい）を乗せた車に手を合わせる市民ら＝2018年8月13日午後0時37分、那覇市の沖縄県庁、小宮路勝撮影



急逝した沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事の葬儀に先立ち、翁長氏の遺骨や位牌（いはい）を載せた車が、13日午後0時35分ごろ、県庁前に到着した。2人の副知事や県議会議長のほか市民ら数百人が集まり、喪主の妻樹子（みきこ）さんら遺族を前に黙禱（もくとう）を捧げた。市民が「翁長さん、ありがとう」と呼びかける中、車は同40分ごろに出発した。すすり泣く声も聞かれた。（山下龍一、小宮路勝撮影）

翁長知事が県や那覇市の職員らに“最後のお別れ、遺骨を乗せた車が市役所、県庁経由で告別式会場へ
琉球新報 2018年8月13日 12:53



見送りのため出迎えた県幹部や県職員らに礼をする位牌（いはい）を携えた翁長知事の妻樹子さんや親族ら＝13

日午後0時40分ごろ、沖縄県庁

8日に67歳で死去した沖縄県知事、翁長雄志さんの葬儀と告別式が13日午後、那覇市の大典寺で行われる。

告別式を前に同日午後0時37分、翁長さんの遺骨と遺族を乗せた車両は翁長さんの最後の職場となった県庁に立ち寄った。

県旗と国旗の半旗がゆらめく正面玄関前には大勢の県職員や市民が集まり、翁長さんに最後の別れを告げた。

長男の雄一郎さんが遺骨を、妻樹子（みきこ）さんが位牌（いはい）を抱き、集まった職員や市民らに深く一礼した。

「翁長さんありがとう」のメッセージが書かれた横断幕を掲げ、翁長さんを見送る県民の姿もあった。



那覇市役所前で、城間幹子市長や市民らに見送られる翁長雄志知事の遺骨や位牌（いはい）が乗った車＝13日午後0時26分ごろ、同市役所前

車両は翁長さんが市長を務めた那覇市役所にも立ち寄った。城間幹子市長のほか一般の市民ら約100人が見送った。

沖縄県庁の1階ロビーに設置された翁長知事を悼む記帳所には60人以上の県民らが並んでいた。

翁長さんの告別式は午後3時から行われる。

【琉球新報電子版】

翁長知事に「ご苦労様」「ありがとう」 県庁・市役所に多くの県民

沖縄タイムス 2018年8月13日 14:10

急逝した翁長雄志知事の告別式が13日午後3時から開かれるのを前に、翁長氏の位牌を乗せた車が同日午後0時40分ごろ、那覇市役所や県庁を回り、多くの県民が別れを告げた。



位牌を手にお別れのあいさつをす翁長雄志知事の妻・樹子

さん（中央）と、富川副知事（右側中央）と謝花副知事、
県庁職員ら＝13日午後0時40分ごろ、県庁

車は正午前に自宅を出発。那覇市役所に車が到着すると、
駆けつけた市民らが手を合わせ、すすり泣く声があがった。
深く頭を下げていた市内の女性は「沖縄のために自分の病
気も忘れるくらいがんばっていた。本当にご苦労さまでし
た」とねぎらった。

県庁では、県幹部や集まった市民らが黙とう。出発する
車に向かって、「ありがとうございます」と声が掛けていた。
告別式は那覇市松山の大典寺で行われる。

翁長知事 告別式を前に県庁などで最後の別れ NHK2018年8月13日 14時57分



今月8日に亡くなった沖縄県の翁長知事の告別式が行われ
るのを前に、親族が位はいを持って県庁や那覇市役所を訪
れ、最後の別れを告げました。



沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設反対
を訴えて国と激しく対立してきた沖縄県の翁長知事は、今
月8日、すい臓がんのため、67歳で亡くなりました。

13日午後3時から那覇市内で告別式が行われるのを前に、
翁長知事の親族が、車で、県庁と、10年以上市長を務めた
那覇市役所を訪れました。

県庁のロータリーでは、副知事などの県の幹部や県議会議員
、それに多くの県民などが並んで出迎え、親族が位はい
と遺影を持って車から出てくると、1分ほど頭を下げて黙
とうをささげました。

このあと、翁長知事の妻の樹子さんが2人の副知事に「あ
りがうございました」と感謝の念を伝えると、富川副知
事が「ご苦労様でした」と申いのことばをかけていました。
このあと、親族を乗せた車は告別式の会場に向けて出発し、
集まった人たちからは「翁長知事ありがとう」などと声
が上がっていました。

翁長雄志沖縄県知事を歴代担当記者たちが語り合った 「言霊」持った政治家 県民の「うねり」引き出す 琉球新報 2018年8月13日 05:30



記者の質問に時折、笑顔を交えながら答える翁長雄志知事
＝7月27日午前10時53分ごろ、県庁

翁長雄志知事が死去したことを受け、琉球新報社は12
日、記者座談会を開いた。4期14年の那覇市長時代と、
知事在任中の約3年8カ月、翁長氏の動向をつぶさに追っ
てきた琉球新報の歴代那覇市政担当記者、県政担当記者ら
が翁長氏の政治家としての横側や逸話などを語り合った。



ゴルバチョフ元ソ連大統領を見送る翁長雄志那覇市長（当
時）＝2003年11月12日、那覇空港

■那覇市長時代■

—どんな人物だったか。

瀬底 「那覇市政担当として、朝な夕なに直撃することも多
かった。毎回、求めている答えが返ってくることはなかつ
たが、取材が尽くされた上で質問をしているのかを鋭く観
察しているようで、いつも緊張した。一度、人事関係で最
終的な取材をした時『昨日で聞けばよかったのに』と笑っ
て返されたことがある」

新垣 「知事就任後、しばらくして開かれた記者懇談会での
ことだ。昼間はマスコミにそっけなく対応することが多い
ことに触れ『本当は話をしたいんだけど、ごめんなさいね』
とわびていた。酒も入った席で、上機嫌を指摘すると『あ
っさ、本当の僕はどんなに明るいか。あなたなんかとも
ずっとおしゃべりできるよ』と。記者サービスもあったの
だろうが、根っからの明るさも感じさせた」

—那覇市政での功績は。

問山 「那覇市長に就任した直後の市政を担当した。当時は
よく飲み連れて行ってくれた。行きつけのスナックで、

未来の那覇市のことやまちづくりについて熱く語っていた。それと、那覇市長になることが長年の夢だったことも。『行政は最大のサービス産業』と、市民の視点でサービスが提供できるよう市職員の意識改革の必要性を強調していた。平安「市民が暮らしやすい都市づくりに関して高い意識を持っていた。屋上緑化も積極的に取り組み、翁長氏も自宅実践した。那覇市の職員や記者を自宅に招いて、屋上庭園のお披露目をやったことがある。翁長氏は育てた植物の種類や屋上緑化実現までの過程を楽しそうに話していた」

瀬底「那覇市長時代に繰り返し『イデオロギーを乗り越えて、市民本位の市政を』と語った。東西冷戦終結の立役者であるゴルバチョフ元ソ連大統領を那覇市に招いたこともその表れだろう。『米軍基地が横たわっているため沖縄県では、イデオロギー闘争がすごすぎて、市民生活がおざなりにされてきた』と何度も聞かされた。市役所の意識改革、環境問題では一定の成果を上げたように思う」



「戦後70年 止めよう辺野古新基地建設！沖縄県民大会」で力強くあいさつする翁長雄志沖縄県知事＝2015年5月17日午後、沖縄セルラースタジアム那覇

■沖縄の歴史背に 鋭いフレーズ■

—いくつかの印象的な言葉を残した。

島「強権を振るう政府に言葉で対抗し、県民を鼓舞した。言葉を込めた政治家だった」

当銘「那覇市長時代、奥さんの樹子さんが『外ではあんなにたくさん演説するのに、家では全然喋らないんです』と話すと、翁長氏は笑いながら『僕は家では全然話さないんだ。政治や市政運営のことを物考えしているから』と認めた。家でも政治家であり続けた結果『魂の飢餓感』『肅々とは上から目線』『イデオロギーよりアイデンティティー』という、県民や国民がハッとするようなフレーズを紡いだのだろう」

新垣「言葉の強さを知り、沖縄が歩んだ歴史を大切にしている人なのだと思いますのは、ようやく実現した菅義偉官房長官との初会談での『キャラウェイに重なる』との発言だった。日本復帰40年がたっても変わらない沖縄の状況を端的に表現し、それがまた反響を呼んだ。幅広く県民の共感を呼んだのでは」

—「日本の中の沖縄」を意識しつつも、沖縄の立場で語っていた。

滝本「政府と対峙(たいじ)する状況が続いていた時、スポーツで日本勢が善戦した試合があり『我々も日本選手が活躍したら、喜び、涙も流す。なのに…』と一方的な日本側への思いとなっていることに寂しさ語っていた。ある意味、日本人になりたい、なろうとして、沖縄の方から本土の方に近づいていっているのに、本土側の方から拒まれて、寄せ付けようとされない。そんな状況に憤りと、寂しさ、『なぜ聞き入れてくれないんだ』というもどかしさを感じていたのではないか」



オスプレイ配備撤回を訴えて東京都内をパレードする翁長雄志那覇市長(当時)ら県内全市町村の代表ら＝2013年1月27日、東京都中央区銀座

■保守政治問い続け 政権との対峙(たいじ)■

—「オール沖縄」を構築した源泉をどう考えるか。

宮城「那覇市長に就任したとき、『大田県政と対抗していたときは僕の青春時代だった』と語った。『右』の政治家だったが『左』にもウイングを広げないと沖縄の問題は解決できないとも。これがオール沖縄の原点だ」

松元「19年前の忘れ難い取材がある。1999年9月、米軍普天間飛行場の県内移設を容認する稲嶺恵一知事を支えるため、県議会で自民党が『県内移設容認』決議案を提出した。賛成多数で可決された後、提案者代表の翁長知事(当時の自民党県連幹事長)は『県内移設の代償として、沖縄振興予算を獲得して経済を浮揚させる。それが沖縄の保守の信念だ』と胸を張ったが、安堵の表情がすぐに曇ったことが記憶に残る。選挙で選ばれた県民代表が基地を巡って賛否に分かれていがみ合うことに、翁長さんは複雑な思いを抱いていたように思う」

宮城「99年の徹夜議会の時、県議会の担当だった。実はこの時、翁長氏は私に『過重な基地があることには反対と言いたい。気持ちは分かるが、政権党の立場があるので、野党のように反対と言えない』と明かしていた。この頃から普天間移設問題に疑問を抱いていたのではないか」

当銘「2014年の知事選時、『オール沖縄』という言葉がいつ頃から使われるようになったのか調べたことがある。検索した限りでは『オール沖縄』という言葉が政治の場で初めて出てくるのが1979年。驚いたことに、翁長氏の兄助裕さんが出馬した衆院選の打ち上げ式の記事で助裕さんが『これからはオール沖縄でやっていく必要がある』と訴えていた。助裕さんの言葉を聞いていた翁長氏の心に残

った言葉だったんだと思う」

金良 「17年の新年会で、父・助静さんの短歌『侘（わ）びしげに見ゆれど孤（ひと）つの高さ示し岩を圧（おさ）へてひともと小松』を詠んだ。『大きな岩の上にある小さな松は侘びしく見えるが、松は根を張り岩を押さえている』と意味を解説し、自分自身を、根を張る木に例えることが多かった。沖縄を支え発展させるため、根を張り続けようとしていたと改めて思う」

知念 『『建白書』実現を訴える13年1月の東京要請行動を随行取材した。復帰後最大規模の東京行動ということで注目を集めたが、銀座で行われたデモ行進は足を止める人もまばらで、右翼団体の妨害に遭って罵声を浴びせられた。その際、『参加者の半分が初めて本土の無理解と無意識にぶつかってショックを受けたが、がくつきかというところではない。沖縄から声を上げないとどうにもならない（という思いが強まっている）。団結の心は強くなった』と語った。大きなうねりを作り出していったのは自身の力が大きかったと思う」



米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古埋め立て承認撤回の会見で、記者の質問に答える翁長雄志知事＝7月27日午前、県庁

■命賭け未来問うた 最後の会見■

一亡くなる直前の様子はどうだったのか。

島「5月25日に会った時、自らの病状を説明して『幸い、転移はないようですから』と話していた。回復を信じていたと思う。残念でならない」

与那嶺「辺野古新基地建設を巡る埋め立て承認の撤回に向けた手続きに入ることを表明した7月27日の会見が、翁長知事を目にした最後になった。非常に雄弁で、内容にも入院前のような力強さがあった。しかし会見の裏側では、エレベーターに乗る直前に歩けなくなり、十数秒間壁にもたれて休んでいる翁長知事の姿もあった。本当に命懸けだった。保守政治家の出自を誇りとしながら、本当の保守政治とは何かを今の自民党の政治家に厳しく問い続けていた気がする」

◇

◇

〈記者座談会参加者〉北部支社・宮城修、読者事業局・松元剛、政治部・与那嶺松一郎、東京報道部・滝本匠、知念征尚、整理グループ・当銘寿夫、経済部・島洋子、平安太一、中部報道部・新垣和也、地方連絡部・瀬底正志郎、社会部・問山栄恵、金良孝矢

教師が父の名前に「×」 政治家・翁長雄志氏の歩み 県民同士の対立に違和感

沖縄タイムス 2018年8月13日 14:07

翁長雄志知事の告別式が13日午後3時から同4時半まで、那覇市松山の大典寺で行われる。那覇市議2期、県議2期、那覇市長4期を務め、知事1期目の任期中に亡くなった。知事として名護市辺野古の新基地建設反対を貫き、沖縄に米軍基地が集中する不条理を全国に突き付けた翁長氏に、県内外から多くの参列者が別れを告げに訪れる。



那覇市議に最年少で当選を果たし、支持者らと喜びを分かち合う翁長氏（中央）＝1985年7月15日、那覇市



那覇市長選で当選を確実にし、支持者から贈られた花束を手に笑顔を見せる翁長氏（中央）＝2000年11月12日、那覇市天久



知事選で当選が確実になり支持者と万歳三唱で喜ぶ翁長氏（中央）＝2014年11月16日、那覇市壺川の選挙事務所



記者会見で初めての訪米活動を振り返る翁長雄志知事（手

前) = 2015年6月3日、ワシントン・ナショナルプレスセンター



インタビューに答える沖縄県の翁長雄志知事 = 2016年6月、沖縄県庁



辺野古沿岸部の埋め立て承認の取り消しを発表する翁長雄志知事(中央) = 2015年10月13日、県庁

翁長雄志氏の歩み	
1950年10月	那覇市(日真和志村)で生まれる
75年3月	法政大学法学部卒業
85年8月	那覇市議会議員に初当選。2期務める
92年6月	県議会議員に初当選。2期務める
2000年12月	那覇市長に初当選。4期務める
13年7月	「清白書」提出の東京要請行動の共同代表を務める。集会で「米軍基地は経済発展の最大の障害要因だ」と訴える
14年10月	「オール沖縄」で米軍普天間飛行場の辺野古移設反対を訴え、県知事選に立候補
11月	明麗の仲井真弘多氏を約10万票差で破り初当選。翌12月に第7代知事に就任
15年5月	初訪米し、辺野古移設反対を訴える。計4回訪米
9月	国連人権理事会で基地負担の不公平を訴える。国連演説は日本の都道府県知事としては初めて
10月	仲井真前知事による埋め立て承認を取り消し。その後、国との間で法廷闘争に
16年5月	止めよう辺野古新基地建設県民大会で「ウチナーンチュ、ウシェーティナイピラントー(沖縄の人をなめてはいけません)」と演説
12月	最高裁で県の敗訴確定
17年3月	キャンプ・シュワブ前の県民集会で「撤回を力強く、必ずやる」と初めて明言
7月	県が埋め立て工事差し止めを求め提訴
18年3月	那覇地裁が県の訴えを却下
4月	肺腫がんと切除
5月	退院し肺腫がんと公表
6月12日	県議会に出席し「責任をまっとうしたい」と発言
23日	沖縄戦全戦没者追悼式に出席。「辺野古に新基地を造らせないという私の決意は、これからもみじんも揺らぐことはありません」と宣言
7月27日	「公益に適合しない」と埋め立て承認の撤回手続きに入ることを表明
31日	聴聞通知書を防衛局に送付
8月8日	浦添市内の病院で死去。67歳

翁長雄志氏の歩み

辺野古沿岸の埋め立て承認をめぐる動き	
2013年	12月27日 仲井真弘多前知事が沖縄防衛局の埋め立て申請を承認
14年	1月19日 名護市長選で辺野古移設断固反対の稲嶺進氏が再選
	7月1日 防衛局が米軍普天間飛行場代替施設建設事業を開始
	11月16日 知事選で辺野古反対の翁長雄志氏が初当選
15年	1月26日 翁長知事が埋め立て承認を検証する第三者委員会を設置
	5月17日 止めよう辺野古新基地建設県民大会で翁長知事「ウチナーンチュ、ウシェーティナイピラントー」
	7月16日 第三者委が埋め立て承認に瑕疵(かし)ありと翁長知事に報告
	8月10日 県と政府が集中協議を開始(～9月9日)。辺野古沿岸の作業中断
	9月14日 集中協議は決裂。翁長知事が埋め立て承認取り消しを表明
16年	10月13日 翁長知事が承認を取り消し、防衛局へ通知
	14日 防衛局が国土交通相に承認取り消しの執行停止などを申し立て
	27日 国交相が承認取り消しの執行停止を決定
	29日 防衛局が調査・設計を終え、埋め立て工事に着手
	3月4日 三つの訴訟で争っていた国と県が和解。国は工事を中断
17年	7日 国は承認取り消し処分を取り消すよう是正指示
	23日 和解後初の協議。県は係争委に審査を申し出
	6月17日 係争委は是正指示が違法か、違法かを判断せず
	7月22日 石井啓一国交相は是正指示に従わないのは違法として、知事を相手に不作為の違法確認訴訟を福岡高裁那覇支部に提起
	9月16日 違法確認訴訟で福岡高裁那覇支部は国の請求を全面的に認め、県敗訴を言い渡す
18年	23日 県は高裁判決を不服として最高裁へ上告
	12月20日 最高裁が県側の上告受理申立を棄却する判決。県側の全面敗訴が確定
	2月6日 防衛局が埋め立て本体工事に着手
	3月25日 キャンプ・シュワブゲート前、3500人参加の県民集会で、翁長知事は「(埋め立て承認)撤回を力強く、必ずやる」と初めて明言
	31日 埋め立て予定海域での岩礁破碎許可が期限切れ
19年	4月25日 防衛局が護岸工事に着手
	7月23日 県が国を相手に岩礁破碎を伴う工事差し止めを求め、那覇地裁に提訴
	8月12日 オール沖縄会議が県民大会を開催。4万5千人が参加
	12月21日 翁長知事がマスコミ各社のインタビューで任期中の撤回について「任期をまたぐことは基本的にまだ考えていない」と明言
	2月4日 名護市長選で政府与党が全面支援した波島知武豊氏初当選
20年	3月13日 差し止め訴訟で、那覇地裁は県の訴えを「門前払い」
	23日 差し止め訴訟で県が控訴
	4月21日 翁長知事が肺腫(すいぞう)がんと切除する手術を受ける
	5月15日 翁長知事が退院。29日ぶりに登壇。肺腫がんだったと報告
	6月12日 防衛局が護岸で働いた海域に8月17日から埋め立て土砂を投入すると県へ通知
21年	23日 沖縄戦全戦没者追悼式の平和宣言で翁長知事「辺野古に新基地を造らせないという私の決意は、これからもみじんも揺らぐことはありません」
	7月17日 県が防衛局に工事を即時停止し、県と協議するよう求める行政指導を送付。県幹部「最後通告」と早期撤回を示唆する
	27日 翁長知事が記者会見で「公益に適合しない」と埋め立て承認の撤回を表明
31日 県が撤回の手続きとして「聴聞通知書」を防衛局に送付	

辺野古の埋め立て承認をめぐる動き

最後まで病室で資料

翁長氏は最後の最後までどうすれば新基地建設を阻止できるかを考え、病室でも資料を読んでいたという。8日夜、家族に囲まれ、眠るように息を引き取った。67歳だった。

1950年生まれ、那覇市出身。父助静さんは真和志市長や立法院議員、兄助裕さんは県議や副知事を務めるなど、保守系の政治一家に育った。

小学生の頃から那覇市長になることを目標に掲げていた。一方、父の選挙の際、教室の黒板に教師が父の名前に×、相手候補の名前に○と書く姿を見て、米軍基地をはさんで県民同士がいがみ合うことへの違和感を持った。

保革結集を呼び掛け

大道小、真和志中、那覇高、法政大を卒業し、那覇市議、県議のほか、自民党県連の幹事長を経験。2000年の那覇市長選で初当選した。4期14年で、南風原町でのごみ焼却施設の建設、プロ野球巨人のキャンプ誘致を手掛けた。

13年1月、政府に普天間飛行場の閉鎖と県外移設、オ

スプレイの配備撤回を求めた東京行動で中心的な役割を果たした。同年12月に仲井真弘多前知事が辺野古新基地建設につながる埋め立てを承認すると、自民党を離れ、保革を超えたオール沖縄の結集を呼び掛けた。14年11月の知事選で辺野古反対を訴え、辺野古推進を掲げた仲井真氏に10万票近い大差をつけて勝利した。

知事として、埋め立て承認の取り消しや撤回など、法的権限で新基地建設阻止に取り組む一方、米国やスイスに足を運び、沖縄に米軍基地の集中する状況を国際社会に伝えた。

また、しまくとぅばの普及や、全国一といわれる子どもの貧困対策、アジア経済の拡大を取り込んだ県経済の振興にも心血を注いだ。

政治家一家に育つ

政治家一家に育った翁長雄志氏は、幼い頃から政治家を目指し、那覇市議から政治の道を本格的に歩み始めた。

1985年に市議に初当選し2期務め、92年から県議となり、2期務めた。徐々に敏腕政治家としての頭角を現し、県議時代は野党として当時の大田昌秀知事と対峙（たいじ）。

98年の知事選では、自民党県連幹事長として、県政奪還を目指す中心人物として奔走した。巧みな選挙戦術と戦略を駆使して、県経営者協会特別顧問だった稲嶺恵一氏を担いで県政の交代に成功した。

当時、全国に先駆けて自民、公明の共闘態勢を確立。自公路線を盤石なものとし、自身的那覇市長選をはじめ、各国政選挙、県知事選など重要な選挙で勝利を収めてきた。

県都のリーダー

2000年に那覇市長に就任して14年間、市政のかじを握った。市民との対話を重視した「協働のまちづくり」を掲げ、数々の施策を打ち出し、実現した。

沖縄セルラースタジアムの建設、ごみ焼却施設の整備など、ハード面を充実させたほか、市職員の意識改革や行財政改革、しまくとぅば普及に向けた運動などソフト面でも行政手腕を発揮した。

県都のリーダーとして、沖縄の歴史や基地問題についても全国に向けて発信。「教科書検定意見撤回を求める県民大会」や「オスプレイ配備に反対する県民大会」の開催にも取り組んだ。沖縄の歴史に立脚した主張を展開し、保守層に限らず幅広く沖縄のリーダーとしての地位が意識されるようになった。

沖縄の歴史踏まえ主張

14年に、名護市辺野古への新基地建設阻止を訴え知事選に挑戦し、現職に約10万票差をつけ当選。就任後も新基地阻止を貫き続けた。知事として大規模な県民大会に3回出席し、しまくとぅばを使った演説で、参加者を鼓舞。首相をはじめ政権幹部に対しても、沖縄の立場や現状を舌鋒（ぜっぽう）鋭く突きつけ、共感を広げた。

15年10月には辺野古埋め立て承認を取り消し、国との対立が激化。知事を支持する民意を背に、政治や司法の場でも沖縄の主張を訴えたが、国との訴訟では最高裁で敗訴が確定するなど、厳しい闘いを強いられた。

今年7月には知事の最大の権限である埋め立て承認の撤回方針を表明。国が8月17日にも予定する埋め立て土砂の投入を目前にし、権限を行使する強い意志を示したが、病が進行し、道半ばで急逝した。

辺野古への土砂投入阻止を掲げた11日の県民大会では、知事の急逝を悼む大勢の県民が集い、追悼集会の様相を呈した。参加者は静かに黙とうをささげて冥福を祈ると同時に、知事の遺志を継いでいくことを確認していた。

翁長さん死去 手向けの花と共に ツイッター上で追悼投稿広がる

琉球新報 2018年8月13日 05:00



ハッシュタグ「#FlowersForMrOnaga」を付け、花の写真と共に発信することを呼び掛けた「nee」さんのツイッターへの投稿（画像は一部修正しています）

8日に亡くなった知事の翁長雄志さんの死去を受け、短文投稿サイト「ツイッター」上で、ハッシュタグ「#FlowersForMrOnaga」を付け、花の写真と共に投稿する動きが広がっている。12日午後8時半現在、少なくとも300件近くの投稿が確認された。投稿にはハイビスカスやホウオウボク、西洋の花言葉で「誇り」を意味するライラックなどの写真が付けられ、多くの賛同者が翁長さんに花を“ささげ”、追悼の思いを表している。

企画したのは県内在住の40代女性で、ツイッターのアカウント名「nee」さん。9日に「遠くにいる方も、タイムラインで静かに追悼できますように。もしご賛同いただける方々がいらしたら、どうぞ、ご一緒をお願いします」と投稿したところ、多くの賛同を呼んだ。

琉球新報の取材に応じたneeさんによると、これまで政治的な活動に携わったことはないという。しかし、翁長さんの死去後、ツイッター上に翁長さんへの中傷や悪意を持った投稿が多いことに心を痛み、「花で追悼したい」と思

い付いた。

neeさんは「沖縄の人が言いたくても言えない気持ちを代弁してくれた人。ひどい言葉を投稿する人に対し、それを否定する言葉を返信するよりも、静かに見送る気持ちを届けたい」と語った。

「#FlowersForMrOnaga」には、在りし日の翁長さんの生き方に合わせ「風格」「平和」などの花言葉を持った花を選んだ投稿も多かった。「沖縄の県知事が翁長雄志知事で、本当に誇らしかった」「世界一の知事でした」。13日の翁長さんの告別式を前に、色とりどりの花と感謝のメッセージは広がり続けている。

沖縄、翁長氏に最後の別れ 「信念の人、安らかに」

共同通信 2018/8/13 18:45



那覇市内で営まれた翁長雄志沖縄県知事の葬儀＝13日午後（代表撮影）

沖縄県の基地負担軽減を求め、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設阻止を掲げ続ける中、8日に67歳で死去した翁長雄志知事の葬儀・告別式が13日、那覇市の寺で営まれた。参列者らは「信念の人、安らかに」としのんだ。政界関係者や旧友、米軍関係者ら4千人以上が集まり、最後の別れを告げた。

弔辞で稲嶺恵一元知事（84）は「健康より、沖縄に過重な基地負担を負わすべきでないとの信念を優先して去った生きざまは、永久に語り継がれる」とたたえた。

遺族代表として長男雄一郎氏（35）が「父は沖縄への愛を力に変えて政治活動へ人生をささげた」とあいさつした。

「信念の生きざま、語り継がれる」＝告別式で翁長知事に別れ—沖縄



大勢の参列者が詰め掛けた翁長雄志沖縄県知事の告別式＝13日午後、那覇市・大典寺（代表撮影）

8日死去した沖縄県の翁長雄志知事の葬儀・告別式が13日午後、那覇市の大典寺で営まれ、政界関係者や県民ら約4500人が参列し、故人をしのんだ。

稲嶺恵一元知事は弔辞で、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設阻止に取り組んだことを念頭に、「健康より信念を優先して去っていった生きざまは、永久に語り継がれる。命を賭けて取り組んだ行動は、日本国全体に大きなインパクトを与えた」と称賛。「あなたが大事にしてきた平和を希求する『沖縄のこころ』は次世代にもしっかり引き継がれていく」と語った。

沖縄県議会の新里米吉議長は記者団に対し、「志半ばで帰らぬ人となった翁長さんの思いを残された県民がしっかり実現していくことが弔いになる」と述べた。翁長氏と対立する自民党県連の国場幸之助会長は「沖縄の課題は国民全体で考えなければいけないテーマだと、命を削って体現した」と評価した。

祭壇には、緑のかりゆし姿で満面の笑みを浮かべた遺影が飾られた。葬儀・告別式には、鳩山由紀夫元首相や2014年の知事選で翁長氏と戦った仲井真弘多前知事も参列した。（時事通信 2018/08/13-19:58）

「平和希求の心引き継がれる」と稲嶺恵一元知事が弔辞 翁長知事の葬儀行われる 午後3時から一般焼香の告別式

琉球新報 2018年8月13日 14:48



葬儀のため会場の大典寺に位牌（いはい）を携えて入る翁長雄志沖縄県知事の妻樹子さんや親族ら＝13日午後1時すぎ、大典寺

8日に亡くなった翁長雄志知事の葬儀が13日午後2時、那覇市松山1の9の1の大典寺で始まった。午後3時から一般焼香の告別式が営まれる。

喪主は妻の樹子（みきこ）さん。現職知事が在任中に死去するのは初めて。沖縄の政治指導者として最後まで職責を全うした翁長知事に別れを告げようと、大典寺周辺には葬儀前から多くの参列者の列ができています。

弔辞を読んだ元知事の稲嶺恵一氏は翁長知事に語り掛けるように「あなたの平和を希求する沖縄の心は次の世代にも、しっかりと引き継がれていくことでしょ」と悼んだ。

遺族を代表して長男の雄一郎さんが参列者に謝辞を述べ

た。

翁長知事は歴代知事の中でも高い県民支持率を背景に、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設を推し進める日米両政府と対峙し、沖縄の過重な基地負担の軽減を訴えていた。

突然の訃報に驚きと悲しみが広がっており、沖縄だけでなく国内外からも死を悼むメッセージが寄せられている。

翁長氏は8日午後6時43分、膵臓がんのため入院先の浦添総合病院で死去した。

翁長知事は今年に入り、辺野古新基地建設阻止を訴える訪米行動や、天皇、皇后両陛下の沖縄訪問時の同行など重要な公務が続いていた中で、体重の減少など体調面の不調が見られていた。

4月に受診した人間ドックで再検査が指示され、精密検査の結果、膵臓がんが見つかった。手術後、5月15日に退院し、治療を続けながら週1回程度の公務をこなしてきた。

だが、7月30日に再入院。今月7日から体調が急速悪化し、8日に家族に見守られながら息を引き取った。【琉球新報電子版】

翁長知事に最期の別れ 仲井真弘多前知事が告別式参列

沖縄タイムス 2018年8月13日 19:26

沖縄県の仲井真弘多前知事は13日に執り行われた翁長雄志知事の告別式に参加した。焼香後、記者団に囲まれながらも歩みを止めることなく、質問に対し、「冥福を祈っています」「お別れを言いに来ただけです」と繰り返した。「仲井真さんの知事選で選対本部長を務めた翁長さんはどんな人でしたか」といった問い掛けにも無言で、迎えの車に乗り込んだ。



翁長知事の告別式に参列した仲井前知事

翁長知事は、仲井真氏が2期目に出馬した2010年知事選で、選対本部長を務めた。前年の政権交代で、民主党を中心とした政権が、米軍普天間飛行場の県外移設を公約に掲げながら、10年5月に名護市辺野古移設に回帰。県民の怒りが高まる中、翁長氏が水面下で調整し、仲井真氏の公約に「県外移設」を盛り込み、2期目の当選を果たした。

一方、仲井真氏はその公約を覆す形で、13年12月、辺野古移設を進めることになる辺野古沿岸の埋め立てを承認。政府から10年間、沖縄関係予算3千億円を確保するとの約束を取り付け「いい正月が迎えらる」と語ったこ

とで、翁長氏は「県民の意地と誇りが傷つけられた」と、仲井真氏とたもとを分かった。

翁長氏は辺野古移設反対にかじを切り、2014年の知事選に立候補し、辺野古移設推進を訴え、3期目を目指した仲井真氏に9万9744票の大差をつけ、初当選を果たしていた。

翁長知事と別れ惜しむ 「平和の心、次世代に」 告別式で稲嶺元知事ら弔辞

沖縄タイムス 2018年8月13日 15:33

任期中の今月8日、膵臓（すいぞう）がんのため亡くなった翁長雄志知事の葬儀が13日午後2時から那覇市松山の大典寺で行われた。告別式は午後3時から執り行われている。



県内外から多くの弔問客が訪れている翁長雄志知事の葬儀、告別式＝13日午後、沖縄県那覇市松山の大典寺

葬儀では、読経の後、喪主で妻の樹子さん、長男の雄一郎さんらが焼香した。

弔辞で稲嶺恵一元知事は沖縄の米軍基地の過重負担を訴え続けた翁長氏に対し、「あなたが命をかけて取り組んできたことは、全国に大きなインパクトを与えた」と強調。「平和を希求する心は確実に次の世代に引き継がれている」と別れを惜しんだ。

県の政策参与で医師の真栄田篤彦氏は「沖縄の思いを語る姿はウチナーンチュそのものだった。あなたの成し遂げた偉業に尊敬と感謝をささげる」と語った。

遺族を代表して、長男の雄一郎さんは「野球が好き、酒が好きで、孫煩惱な普通の父親だった。知事として活動できたのは皆さまが支えてくれたから」と謝辞を述べた。

翁長知事の葬儀「平和希求する心は次世代へ」4千人参列

朝日新聞デジタル 2018年8月13日 19時52分



翁長雄志沖縄県知事の告別式で親族代表あいさつをする長男の翁長雄一郎氏＝

13日午後2時50分、那覇市、代表撮影



今月8日に膵(すい)がんのため67歳で死去した沖縄県の翁長雄志(おながたけし)知事の葬儀が13日、那覇市内であった。政財界関係者や一般市民ら約4500人が参列し、別れを惜しんだ。

葬儀では、長年親しかった稲嶺恵一元知事(84)が「あなたが命をかけて取り組んだ行動は、日本国全体に大きなインパクトを与えた。平和を希求する沖縄の心は、次の世代にもしっかりと引き継がれていく」と弔辞を述べ、米軍普天間飛行場(宜野湾市)の県内移設反対を貫いた翁長氏を悼んだ。

また葬儀に先立ち、翁長氏の遺骨や位牌(いはい)を載せた車が県庁前などを回った。県職員や数百人の市民が見送り、「翁長さん、ありがとう」などと声があがった。

翁長沖縄県知事 那覇市内で葬儀 4500人以上が参列

毎日新聞 2018年8月14日 01時06分(最終更新 8月14日 01時38分)

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への県内移設反対を訴え続け、今月8日に膵(すい)がんのため67歳で死去した沖縄県の翁長雄志(おながたけし)知事の葬儀が13日、那覇市の大典寺で営まれ、政財界関係者ら4500人以上が参列し別れを惜しんだ。

祭壇には笑顔の遺影が飾られた。親交があった稲嶺恵一元知事(84)は「沖縄知事の最大の課題は基地問題だ。あなたが命を懸けて取り組んだことは日本国全体に大きなインパクトを与えた。あなたが大事にしてきた平和を希求する沖縄の心は次の世代にもしっかりと引き継がれていく」と弔辞を述べた。

遺族を代表し、長男の雄一郎さんが「家では母や子どもに優しい夫、父であり、孫煩惱なおじいちゃんでもあった。沖縄への愛を力に変えて政治活動に人生をささげた」とあいさつした。

辺野古の埋め立てを承認した仲井真弘多(なかいまひろかず)前知事(78)も姿を見せ「ご冥福をお祈りした」と言葉少なに会場を後にした。式場には時折、大粒の雨が降ったが、多くの県民が駆けつけた。豊見城市の主婦(68)は「県民のために頑張り、こんなにも早く亡くなってしまった知事に『お疲れさま』と言いたかった」と話した。

遺族の車両は、葬儀の前に県庁などに立ち寄り、出迎えた県職員や市民が黙とうをささげた。【比嘉洋、遠藤孝康】



大勢の参列者が詰め掛けた翁長雄志沖縄県知事の告別式＝沖縄県那覇市の大典寺で2018年8月13日午後3時(代表撮影)

沖縄、翁長氏に最後の別れ 「信念の人、安らかに」

日経新聞 2018/8/13 18:31 (2018/8/13 18:54 更新)

沖縄県の基地負担軽減を求め、米軍普天間基地(宜野湾市)の名護市辺野古移設阻止を掲げ続ける中、8日に67歳で死去した翁長雄志知事の葬儀・告別式が13日、那覇市の寺で営まれた。参列者らは「信念の人、安らかに」としのんだ。政界関係者や旧友、米軍関係者、県民ら4千人以上が集まり、最後の別れを告げた。



大勢の参列者が詰め掛けた翁長雄志沖縄県知事の告別式(13日、那覇市の大典寺)＝代表撮影

弔辞で稲嶺恵一元知事(84)は「健康より、沖縄に過重な基地負担を負わすべきでないとの信念を優先して去った生きざまは、永久に語り継がれる」とたたえた。

遺族代表として長男、雄一郎氏(35)が「父は沖縄への愛を力に変えて政治活動へ人生をささげた」とあいさつ。親交のあったゴルバチョフ元ソ連大統領の「平和のために闘った政治家だった」とのメッセージも読み上げられた。

福井照沖縄・北方担当相、鳩山由紀夫元首相や自由党の小沢一郎共同代表のほか、仲井真弘多前知事、在沖縄米軍トップのスミス海兵隊中將も訪れた。

葬儀前には遺骨を乗せた車が県庁に立ち寄り、多くの県民が見送った。位牌を持った妻、樹子さん（62）ら遺族が正面玄関で、県職員や県民らとともに黙とうした。

県幹部は記者団に、四十九日に当たる9月末に県民葬を開催したいとの意向を示した。

翁長氏は那覇市長だった2014年、辺野古移設反対を訴え、知事選に立候補し初当選した。今年5月に膵（すい）がんと公表し、闘病を続けながら公務を続行。移設先の埋め立て承認撤回の手続き開始を7月27日の記者会見で表明したが、3日後に再入院し、12月の任期満了を目前に死去した。〔共同〕

産経新聞 2018.8.13 18:45 更新

翁長雄志氏告別式 辺野古移設反対「県民1つになること課題」



翁長雄志沖縄県知事の告別

式で親族代表あいさつをする長男の翁長雄一郎氏＝13日午後2時50分、沖縄県那覇市・大典寺（代表撮影）

8日に膵（すい）がんのため死去した沖縄県の翁長（おなが）雄（たけ）志（し）知事の告別式が13日、那覇市内の大典寺で営まれた。知事経験者の稲嶺恵一、仲井真弘多（ひろかず）両氏、鳩山由紀夫元首相ら県内外の政財界関係者や県民が参列した。

告別式では、翁長氏と遠縁に当たる稲嶺氏が弔辞を述べ、翁長氏が米軍普天間飛行場（宜野湾（ぎのわん）市）の名護市辺野古移設に反対したことについて「あなたの命をかけて取り組んだ行動は日本国全体に大きなインパクトを与えた。しかし、この問題を進めるには県民が1つになることが重要だ。私たちに残された大きな課題だ」と語った。

13日から謝花（じゃはな）喜一郎副知事に代わり、翁長氏の職務代理者を務める富川盛武副知事は告別式終了後、記者団に対し、辺野古埋め立て承認の撤回について「タイミングについてはこれから決めていきたい」と語った。政府は17日に土砂投入を予定している。

産経新聞 2018.8.13 20:14 更新

鳩山由紀夫元首相、翁長雄志氏の告別式に参列 県民に「遺志を守って」



沖縄県の翁長雄志知事の告

別式に参列後、記者団の質問に答える鳩山由紀夫元首相（右）＝13日午後、那覇市の大典寺

鳩山由紀夫元首相が13日、那覇市で営まれた沖縄県の翁長（おなが）雄志（たけし）知事の告別式に参列した。記者団に対し、米軍普天間飛行場（宜野湾（ぎのわん）市）の移設先をめぐる迷走した鳩山内閣時代について「自分自身の力と決意がもっと強ければ、米国にもっとモノを言うことができた。沖縄県民には今でも申し訳ないと思っている」と述べた。

鳩山氏が率いた民主党は平成21年の衆院選で普天間飛行場の移設先を「最低でも県外」と訴えて圧勝した。しかし、鳩山内閣は移設先を見つけられず、当初計画通りの名護市辺野古を移設先とした。

鳩山氏は「沖縄県民が大変お怒りになった。そのことで翁長知事誕生まで導かれた」と述べ、翁長氏が26年の知事選で勝利したのは、自身の存在が影響したとの認識を示した。また、鳩山氏は沖縄県民に「総力をあげて翁長知事の残されたご遺志をぜひ守っていただきたい」とも語った。

産経新聞 2018.8.13 20:22 更新

「人間として尊敬していた」と鳩山由紀夫元首相が翁長雄志氏を評価 ぶらさがり取材詳報



翁長雄志沖縄県知事の葬儀に訪れた鳩山由紀夫元首相＝13日午後、那覇市

鳩山由紀夫元首相は13日、那覇市で営まれた沖縄県の翁長雄志（おなが・たけし）知事の告別式に参列した。参列後、記者団に米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対した翁長氏への思いなどを語った。ぶらさがり取材の詳報は以下の通り。

――きょうはどんな思いでおまいりしたか

「まさに命をかけて平和のために戦われた翁長知事、人間として心から尊敬しておりましたので、あまりにも早くご逝去されたのを本当に悲しんでおります。ただ、それだけに、この残された、特に県民の皆さん方が総力をあげて

翁長知事の残されたご遺志をぜひ守っていただきたいし、そのためには当然、先ほどご長男の方がお話しされましたように、沖縄をこよなく愛しながら日本も愛しておられたという、当たり前のことですが、日本の国民の皆さんも平和というものをどうやって守るかということに応援をしていただきたいと。そんな思いで先ほど、お参りさせていただきました」

—翁長知事が生まれた背景には民主党政権で普天間の問題がクローズアップされた経緯もあった。ご自身と翁長さんの関わりについてどう思うか

「言うまでもありませんし、何度も申し上げておりますが、当然、私が総理の時に最低でも県外という思いを達することができなかった。辺野古に戻してしまうということをしてしまって、沖縄の県民の皆様方が大変お怒りになった。そのことで県民の皆様方がある意味で総力をあげて平和を守るために新たな活動をされて、翁長知事を誕生まで導かれたと思っておりまして、当然、私の、私も何度も沖縄に来させていただいておりますが、その思いは総理の時にできなかった、自分自身の責任というものを少しでも果たして辺野古に基地をつくらせないという方々の思いを、微力ではありますが、応援させていただきたいと。そんな思いで来させていただいております」

—翁長氏はどんな政治家だったか

「私は、あの、翁長知事がいろいろと自民党の思いとは別にですね、沖縄県民に寄り添って活動された。そんな中で大変なご苦労があったと思います。私は那覇の市長を経られて知事になられた。その時に翁長知事が全く自分は那覇市長をやることで自分自身の人生は尽くされたと思っているんで、あとは無欲で戦っていけると。無欲より強いものはないというふうにおっしゃったんで、その、ある意味で無類の意志の強さというものを感じております。ああいう、こういう政治家であらねばならないと。そういう思いを強くしております」

—鳩山氏が首相のときに霞ヶ関にだまされたとはいえ、辺野古に移設を認めたことはかえすがえすも残念か

「それは、かえすがえすも残念です。いろんなことがありました。自分自身の力と決意がもっと強ければアメリカに対してももっとモノを言うことができたし、ましてや官僚の皆さん方に対してそれは違うと、間違っているということが言えたと思います。それができなかったことを大変、沖縄県民の皆さんには今でも申し訳ないと思っています」

翁長知事との別れ惜しむ 葬儀など営まれる 沖縄

NHK2018年8月13日 17時54分



今月8日に亡くなった、沖縄県の翁長知事の葬儀と告別式が那覇市内で営まれ、大勢の人が最後の別れを惜しましました。

沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設阻止を訴え、国と激しく対立してきた沖縄県の翁長知事は、今月8日、すい臓がんのため、67歳で亡くなりました。

13日午後から、那覇市の大典寺で葬儀が行われ、稲嶺※ケイ一元知事が弔辞を読み上げました。

この中で稲嶺元知事は、「沖縄県知事の最大の課題は基地問題です。あなたが命をかけて取り組んできた行動は日本全体にインパクトを与えたと確信しています。あなたが大事にしてきた平和を希求する沖縄のここは次の世代にもしっかりと引き継がれていくことでしょう」と述べ、功績をたたえました。

このあと行われた告別式では、緑のかりゆしを着て笑顔を見せる翁長知事の遺影が祭壇に飾られる中、生前、親交のあった人たちおよそ4500人が訪れ、知事の突然の死を悼みました。

告別式が終わり、翁長知事の位はいや遺影を抱えた親族が知事の公用車に乗って葬儀場を後にすると、参列した人たちは手を合わせて最後の別れを惜しんでいました。

※恵の「心」の上に「ム」。

沖縄県副知事「根っからのウチナーンチュ」

告別式に訪れた沖縄県の富川副知事は『「大変、ご苦労さまでした』という言葉かけた。知事はいちばん、沖縄のことを考える根っからのウチナーンチュだった。ウチナーンチュの進むべき道を指し示し、命を賭して政治に関わってきた。これだけ慕われた政治家も少なくはないのではないか」と話していました。

県議会議長「思いを実現していくことが甲いに」

告別式に訪れた沖縄県議会の新里米吉議長は、「沖縄の置かれている厳しい政治状況の中で、翁長知事こそ県民の声を政治の中にかかしていける人物だと思っていた。きょう、たくさんの方が訪れたことは、知事が言っていた沖縄のアイデンティティを象徴する人物としてのあらわれだった。志し半ばにして亡くなった翁長知事の思いを残された県民がしっかりと実現していくことが、甲いになると思う」と涙ながらに話していました。

自民党沖縄県連会長「命を削って体現した」

告別式に訪れた自民党沖縄県連の國場幸之助会長は「沖縄の課題は国民全体で考えないといけない重要なテーマなんだ、ということ命を削って体現した方だと思う。『知事が目指していた志を継承できるように頑張っていきたいです』とお祈りしました」と話していました。

沖縄知事選、9月30日投開票＝翁長氏死去受け＝県選管

沖縄県選挙管理委員会は13日の臨時会で、翁長雄志知事の死去に伴う知事選を、9月13日告示、同30日投開

票の日程で行うことを決めた。米軍普天間飛行場（同県宜野湾市）の名護市辺野古移設の是非が最大の争点となる見通し。翁長氏を支えた移設反対派と移設推進を目指す政府・自民党はともに選挙態勢づくりを急ぐ。

知事選は翁長氏の1期目の任期切れに伴い11月に予定されていたが、翁長氏の8日の急逝を受けて前倒しされた。

移設反対派は「翁長氏の遺志を引き継ぐ候補」の擁立により、保守、革新の枠を超えた「オール沖縄」態勢を再構築したい考え。関係者の間では謝花喜一郎副知事、城間幹子那覇市長、県内小売り・建設大手「金秀グループ」の呉屋守将会長らの名前が挙がっている。

これに対し、自民党沖縄県連は既に佐喜真淳宜野湾市長に出馬を要請。佐喜真氏は14日に出馬を正式に表明し、選挙準備を本格化させる。

知事選は、9月7日告示、同20日投開票を軸に調整が進む自民党総裁選日程と大きく重なる。このため、同党内では佐喜真氏を十分に支援できるか不安視する声もある。

（時事通信 2018/08/13-20:35）

沖縄県知事選は9月30日 辺野古移設の是非が争点

共同通信 2018/8/13 16:29



米軍普天間飛行場の移設工事が続く沖縄県名護市辺野古の沿岸部へ6日（小型無人機から）

沖縄県選挙管理委員会は13日、臨時会議を開き、翁長雄志知事の死去に伴う知事選を9月13日告示、30日投開票とする日程を決めた。安倍政権が進める米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設の是非が争点となる見通しだ。移設反対派と容認派は13日、候補者調整や移設問題への見解を表明するなど、選挙戦への動きを加速させた。

県選管は、翁長氏の12月の任期満了に伴う知事選を11月1日告示、18日投開票とする日程をいったん決めたが、翁長氏が膵がんのため、今月8日に死去。県は12日に選管へ死亡を通知し、日程を決め直した。

この記事へのお問い合わせ

沖縄知事選、9月30日投開票 翁長知事死去で前倒し

朝日新聞デジタル山下龍一 2018年8月13日 18時37分

沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事が急逝したことを受け、県選挙管理委員会は13日、臨時会議を開き、知事選の日程を9月13日告示、30日投開票と決めた。知事選の日程は11月18日投開票と決まっていたが、前倒しされた。各政党などは準備を加速させている。

翁長氏の死去について、職務代理者の謝花（じゃはな）喜一郎副知事が12日、選管に通知。公職選挙法は、通知の翌日から50日以内に選挙を行うと定めており、9月30日投開票となった。

米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設に反対し、翁長氏を支持してきた「オール沖縄」勢力は、14日に会議を開き、後継候補の人選を含め対応を話し合う。対立する自民県連は佐喜真淳（さきまあつし）・宜野湾市長（54）の擁立をすでに決定。佐喜真氏は14日に市長として辞表を提出し、立候補を表明する。知事選には元日本青年会議所会頭の安里繁信氏（48）も立候補を表明している。

一方、佐喜真氏の後任を決める宜野湾市長選は、知事選と同日の投開票になる可能性がある。佐喜真氏の後継候補として松川正則副市長（64）が立候補する予定。オール沖縄側の候補者は決まっていない。（山下龍一）

沖縄県知事選、9月30日投開票 翁長氏死去で前倒し

日経新聞 2018/8/13 18:15

沖縄県選挙管理委員会は13日、翁長雄志知事の死去に伴う知事選を9月13日告示、同30日投開票で実施すると決めた。いったん11月18日に投開票する日程を決めたが、翁長氏が8月8日に死去したことを受けて変更した。政府が進める米軍普天間基地（同県宜野湾市）の名護市辺野古移設などが争点になる見通しだ。

県は翁長氏が死去したことを12日に県選管に通知した。公職選挙法は、選管が通知を受けてから50日以内に知事選を実施すると定めている。

選管によると、9月6日告示一同23日投開票の日程も検討した。9月9日には県内の多くの市町村で議員選などが予定されており、混乱を避けるために同日程の採用は見送った。

知事選を巡っては、自民党が宜野湾市長の佐喜真淳氏を擁立する方針を決めている。同党は公明党や日本維新の会と協力態勢の構築を目指す。

自民党内は翁長氏の死去で辺野古移設への反対派が勢いづくことを懸念する。党県連幹部は「翁長氏の功績は評価するが、知事選は沖縄の未来をどう描くかだ」と話す。経済振興を中心に、佐喜真氏が公約に掲げる政策をとりまとめる方針だ。

自民党は9月20日ごろに総裁選を予定している。党幹部が沖縄入りして支援する日程も総裁選に左右されそうだ。

辺野古移設への反対派はこれまで翁長氏の出馬を前提に準備をしてきた。翁長氏の死去と知事選前倒しを受け、候補選定が急務だ。参院会派「沖縄の風」の糸数慶子氏や県内首長、会社経営者らの名前が挙がる。遅くとも月内の決定を目指す。

沖縄県では9～10月に選挙が集中する。9月9日に名護、宜野湾などで市議選、10月に那覇市長選などがある。佐喜真氏の知事選出馬に伴い、宜野湾市長選も実施される見通しだ。

政府、沖縄に撤回延期要請 県は土砂投入前の方針

共同通信 2018/8/14 00:39

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設を巡り、政府が県に対し、翁長雄志知事が表明した辺野古沖の埋め立て承認撤回について、延期するよう要請していたことが分かった。県関係者が13日、明らかにした。これに関し県幹部は同日、防衛省沖縄防衛局が土砂を投入する前に撤回に踏み切る意向を示した。「投入前の撤回は間違いない」と記者団に述べた。

政府は翁長氏が死去し、知事選の前倒しが確実視されていた中で、撤回を延期することで土砂投入を先延ばしし、県民の批判をかわず狙いがあったとみられる。

県関係者によると、要請は翁長氏が死去した後にあったという。

「記憶風化させない」＝米軍ヘリ墜落14年－沖縄国際大



2004年の米軍ヘリ墜落事故で焼け焦げたアカギの木の前行われた沖縄国際大の集会＝13日午後、沖縄県宜野湾市

沖縄県宜野湾市の沖縄国際大の構内で2004年、隣接する米軍普天間飛行場所属の大型輸送ヘリCH53が墜落、炎上した事故から14年を迎えた13日、同大は教職員、学生ら約130人が参加して集会を開いた。前津栄健学長（62）は「惨事の記憶を風化させてはならない」と強調し、普天間基地の即時閉鎖、撤去を日米両政府に求めた。

集会は墜落事故で焼け焦げたアカギの木の前行われた。開会に先立ち、沖縄の基地負担軽減を訴え続け、8日に死去した翁長雄志知事の冥福を祈り、参加者全員で黙とうをささげた。



沖縄国際大の集会で学生を代表してスピーチする新垣里奈さん（中央）＝13日午後、沖縄県宜野湾市

前津学長は、昨年12月に同市内で発生したヘリの部品落下など頻発する米軍関連の重大事故に言及。「強い反対を受けてもなお、辺野古の新基地建設を続けようとする日本政府に対する沖縄県民の不信は増幅するばかりだ」と厳しい口調で語った。（時事通信 2018/08/13-18:39）

焦げた木の前で基地閉鎖求め集会 沖国大ヘリ墜落14年

朝日新聞デジタル伊藤和行 2018年8月13日 19時19分



墜落事故の現場

で学生らが改めて米軍機事故の危険性を訴えた＝2018年8月13日午後2時25分、沖縄県宜野湾市の沖縄国際大学、伊藤和行撮影

沖縄県宜野湾市の沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した事故から13日で14年を迎え、大学構内で「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語り継ぐ集い」があった。学生ら約130人が参加し、安全な沖縄になることを願った。

集いは、ヘリ墜落で黒く焦げた木が今も残る場所で開かれた。集いに先立ち、参加者は急逝した翁長雄志（おながたけし）知事に黙禱（もくとう）を捧げた。前津栄健（まえつえいけん）学長は、昨年起きた普天間第二小学校での米軍ヘリ墜落事故や、東村での米軍ヘリ不時着炎上事故を挙げ、「平穏・安寧を脅かす普天間飛行場の存続や固定化を認めることはできない。平和を希求する沖縄の思いを世界に発信し共有されることを目指す」と訴えた。

法学部4年の新垣（あらかき）里奈さん（22）は「沖縄に幸福を」という題で意見発表し、「基地問題に無関心の人も少なくない。自分の子どもや孫が危険と隣り合わせだということを考えながら、自分なりの意見をもってほしい」と話した。

事故は2004年8月13日午後2時すぎに発生。米軍の大型輸送ヘリCH53が墜落し、搭乗員3人が負傷した。
(伊藤和行)

沖縄国際大 米軍ヘリ墜落14年で集会 普天間閉鎖を求め

毎日新聞 2018年8月13日 19時58分(最終更新 8月13日 21時11分)

米軍普天間飛行場に隣接する沖縄国際大(沖縄県宜野湾市)に米海兵隊の大型輸送ヘリコプターが墜落した事故から14年となった13日、同大で「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」があった。昨年12月にも普天間第二小で米軍ヘリの窓が落下するなど事故が頻発している状況を踏まえ、前津栄健(えいけん)学長は普天間飛行場の即時撤去を求めた。

参加者は集いの冒頭、8日に亡くなった翁長雄志知事に黙とうした。前津学長は「普天間飛行場の状況は改善されるどころか欠陥性が指摘されるオスプレイや、老朽化したヘリが県内上空を飛行して危険性は増大するばかりだ」と批判した。

学生代表の法学部4年、新垣里奈さん(22)も「私たちはなぜ大学生活の中で飛行機の墜落や騒音を気にして過ごさなければいけないのか」と訴え、同学部3年の牧志和哉さん(21)は「最終目標を国外移設とし、まずは国民全体で基地について考えることが、基地のない沖縄を実現する一歩となる」と語った。【佐野格】

ヘリ墜落14年、大学で集会 普天間の危険性「増大」

日経新聞 2018/8/13 18:18 記事保存

沖縄県宜野湾市の米軍普天間基地に隣接する沖縄国際大に2004年、米軍ヘリコプターが墜落した事故から、13日で14年となった。普天間基地を巡っては、昨年12月に市立普天間第二小学校に米軍ヘリの窓が落下するなどトラブルが続く。大学主催の集会で前津栄健学長は「危険性は増大するばかりだ」と批判し、日米両政府に即時閉鎖と撤去を求めた。

集会は、学生や職員ら約130人が参加し、ヘリ墜落の発生時刻に近い午後2時ごろに開始。前津学長は「県民の強い反対を受けても、名護市辺野古移設を続ける政府に県民の不信は増幅するばかりだ」と述べた。

4年生の新垣里奈さん(22)は「なぜ大学生活の中で墜落や騒音を気にして過ごさないといけないのか」と表明した。3年生の牧志和哉さん(20)は「他県の人々と、基地問題を考えていくことが必要だ」と訴えた。

事故は04年8月13日に発生。普天間基地を離陸した大型輸送ヘリが、大学本館に激突、炎上した。乗員の米兵3人が負傷したが、学生ら民間人への被害はなかった。

【共同】

東京医科大、国会議員通じ相談か 宇宙飛行士講演で、文科省汚職

共同通信 2018/8/13 17:23

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の業務を巡る収賄容疑で逮捕された文部科学省の前国際統括官川端和明容疑者(57)のあっせんで実現したとされる宇宙飛行士の講演について、東京医科大側が立憲民主党の衆院議員を通じて元コンサルタント会社役員谷口浩司容疑者(47)＝贈賄の疑いで再逮捕＝に相談を持ち掛けていたとみられることが13日、関係者への取材で分かった。

宇宙飛行士は訓練優先のため、JAXA理事らによる選考を経て断るケースも多く、東京地検特捜部は講演が実現した経緯を調べている。勾留期限の15日に収賄罪で川端容疑者を、贈賄罪で谷口容疑者をそれぞれ起訴する見通しだ。

南北、9月に平壤で首脳会談＝「非核化」「終戦宣言」焦点に＝閣僚級協議で合意



13日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で会談した北朝鮮の祖国平和統一委員会の李善権委員長(左)と韓国の趙明均統一相(AFP時事)

【ソウル時事】韓国と北朝鮮は13日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で閣僚級会談を開き、文在寅大統領と金正恩朝鮮労働党委員長の次回首脳会談を9月中に平壤で開くことで合意した。両首脳が会談するのは4月27日、5月26日の板門店会談に続いて3回目となる。

文氏は2回目の会談で板門店の軍事境界線を越え、統一閣を訪れているが、平壤訪問は初めて。韓国大統領の平壤訪問は、故金大中、故盧武鉉両氏に次いで3人目。

4月の初会談で署名した「板門店宣言」は、「完全な非核化」を共同の目標とすることを確認、朝鮮戦争(1950～53年)の終戦宣言の年内採択を目指すことを明記している。9月の会談で、非核化や終戦宣言に関し、具体的な合意をまとめ、こう着状態にある米朝協議の進展につなげられるかどうか焦点となる。

「板門店宣言」は「文大統領が秋に平壤を訪問する」と定めており、文政権は米朝協議の進展を図るため、早期開催を目指していた。しかし、韓国大統領府の金宜謙報道官は首脳会談の時期について「現実的な条件を考えれば、9月初めは難しいのではないかと述べ、中旬以降という見方を示した。北朝鮮側が9日の建国70周年に合わせた祝賀行事の準備に忙殺されているためとみられる。(時事通信)

2018/08/13-18:57)

9月に平壤で南北首脳会談 非核化膠着の打開図る 共同通信 2018/8/13 16:45



13日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で開かれた南北閣僚級会談に臨む韓国の趙明均統一相（左手前から2人目）と、北朝鮮の李善権・祖国平和統一委員会委員長（右手前から2人目）（韓国取材団・共同）

【ソウル共同】韓国と北朝鮮は13日、閣僚級会談を軍事境界線のある板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で開き、文在寅大統領と金正恩朝鮮労働党委員長の間で3回目となる首脳会談を9月中に平壤で行うことで合意した。南北は4月の首脳会談で今秋に平壤で首脳会談を開くことで一致していた。

北朝鮮の非核化を巡る米朝協議が膠着状態となる中、韓国は首脳会談を通じて北朝鮮に非核化措置を促し事態打開を図りたい考えだ。一方米国に対し朝鮮戦争(1950～53年)の終戦宣言など体制の保証へ向けた具体的な動きを求める北朝鮮は、韓国に同調するよう強く要求する見通しだ。

南北首脳会談の日程調整＝板門店で閣僚級協議



13日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で開かれた南北閣僚級会談で握手する北朝鮮の李善権・祖国平和統一委員会委員長（左）と韓国の趙明均統一相（AFP時事）

【ソウル時事】韓国と北朝鮮の閣僚級会談が13日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で開かれた。韓国統一省当局者が明らかにした。韓国は趙明均統一相、北朝鮮は祖国平和統一委員会の李善権委員長が首席代表を務め、文在寅大統領と金正恩朝鮮労働党委員長の首脳会談の日程などを協議する。

趙氏は板門店への出発に際し、「(首脳会談について)北朝鮮の立場を聞き、韓国側の考えも伝え、論議する」と述べた。代表取材団によると、李氏は会談冒頭、「北南首脳は平壤での対面(の論議)が進められている」と語り、首脳会談を平壤で開催する方向で調整していることを明かした。

開催が確定すれば両首脳の会談は、4月27日、5月26日の板門店会談に続いて3回目。4月の会談で署名した「板門店宣言」は「文大統領が秋に平壤を訪問する」と明記しているが、こう着状態にある米朝協議の進展を後押しするため、訪朝時期が前倒しされる可能性もある。



韓国大統領府の金宜謙報道官は12日、南北閣僚級会談で「首脳会談の時期や場所、訪朝団の規模などについて合意することを期待している」と表明。「南北首脳会談が米朝協議を促進し、また米朝協議が南北関係の発展を促すよう期待する」と語った。

ただ、北朝鮮側代表団には金潤赫鉄道省次官らが参加。鉄道・道路の連結問題を重視する布陣となっており、早期の連結実現に向け圧力をかけることも考えられる。(時事通信 2018/08/13-11:57)

平壤での南北首脳会談に前向き 北朝鮮、閣僚級会談で 共同通信 2018/8/13 13:01



13日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で開かれた南北閣僚級会談で、握手する韓国の趙明均統一相（右）と、北朝鮮の李善権・祖国平和統一委員会委員長（聯合＝共同）

【ソウル共同】韓国と北朝鮮は13日、閣僚級会談を軍事境界線のある板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で開いた。北朝鮮側の首席代表の李善権・祖国平和統一委員会委員長は会談冒頭、平壤での南北首脳会談を議論することで「民族が望む問題の答えが得られるだろう」と述べ、首脳会談開催に前向きな考えを示した。韓国取材団が伝えた。

文在寅大統領と金正恩朝鮮労働党委員長の4月の首脳会談時に署名した「板門店宣言」で、文氏が今秋平壤を訪問することで合意している。13日の閣僚級会談は、首脳会談の日程を調整するほか、同宣言の履行状況も議論する見通

し。

南北首脳会談 朝鮮戦争の年内終戦宣言へ布石 国連総会前

毎日新聞 2018年8月13日 21時16分(最終更新 8月14日 00時56分)



握手する韓国の趙明均統一相（左）と北朝鮮の李善権・祖国平和統一委員会委員長＝板門店で2018年8月13日、AP

【ソウル堀山明子】韓国と北朝鮮が13日の南北閣僚級会談で、今年3回目となる南北首脳会談の9月開催を決めたのは、4月に合意した板門店宣言に明記された「年内の朝鮮戦争の終戦宣言」の実現に向け、布石を打つ狙いがある。聯合ニュースによると、文在寅（ムン・ジェイン）政権は9月下旬にニューヨークで開かれる国連総会で南北と米国による3カ国首脳会談を開くシナリオを描く。米国に働きかける時間を確保するため、「8月末から9月初めの開催」を北朝鮮に働きかけたが、今回は具体的な日時を決められなかった。

北朝鮮は9月9日の建国70周年に合わせ、軍事パレードなどを準備している。韓国側が「8月末から9月初め」を求めたのは、9月9日前後を外すことで、北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）体制の正統性を認める印象を避ける狙いもあった。

しかし、韓国青瓦台（大統領府）の金宜謙（キム・ウィギョム）報道官は第3回南北首脳会談は「9月10日までは難しいのではないかと」の認識を示した。

北朝鮮が韓国をけん制するため、日程を確定しなかった可能性もある。韓国取材団によると、13日の南北閣僚級会談で北朝鮮代表の李善権（リ・ソングォン）祖国平和統一委員会委員長は「南北間でこれまで提起した問題が解決されなければ、日程に上がっているすべての問題が難しくなる」と記者団がいる前で警告した。

北朝鮮は8月9日の朝鮮労働党機関紙「労働新聞」を通じ「終戦宣言は時代の要求」と主張。10日の論説では、米国が韓国に「制裁の徹底履行を強迫している」と非難した。李氏は記者団の前では韓国が果たすべき課題が何か明らかにしなかったが、終戦宣言に向けた具体的な行動や、制裁を理由に調査段階にとどまっている南北経済協力事業を本格化させるよう韓国側に求めたとみられる。

9月はロシアのウラジオストクで開かれる東方経済フォーラム（11～13日）、国連総会（18日から）と主要国

首脳が集まる会合が続く。遅くとも国連総会前までに南北首脳が直接会談し、朝鮮戦争終結の意思を確認できれば、国際社会の支持を追い風に、3カ国首脳による終戦宣言に道筋をつけたい。これが韓国側の思惑だが、その機会を失えば、米朝の仲介役を十分に果たせなくなる危険にさらされる。

南北首脳会談 9月に3回目開催へ 韓国大統領が平壤訪問

毎日新聞 2018年8月13日 19時52分(最終更新 8月13日 20時20分)

【ソウル堀山明子】韓国と北朝鮮は13日、軍事境界線のある板門店（パンムンジョム）の北朝鮮側施設「統一閣」で閣僚級会談を開き、文在寅（ムン・ジェイン）大統領と金正恩（キム・ジョンウン）朝鮮労働党委員長による首脳会談を9月中旬に平壤（ピョンヤン）で開くことで合意した。実現すれば、両首脳の会談は今年4月、5月に続き3回目。韓国大統領の平壤訪問は2007年10月の盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領（当時）以来となる。

北朝鮮代表の李善権（リ・ソングォン）祖国平和統一委員会委員長は会談後、首脳会談日程について韓国記者団に「日にちは言わないだけで、すべてうまくいっている」と述べ、ほぼ確定していることを示唆した。北朝鮮は9月9日の建国70周年に合わせ、軍事パレードを準備中で、その前後の日程で議論した模様だ。韓国代表の趙明均（チョ・ミョンギョム）統一相は「できるだけ早く開催する方向で議論したが、招待する北側の日程を考慮した」と述べ、9日以降になる可能性を示唆した。

韓国側の説明によると、李氏は会談で、北朝鮮側は非核化に向けて努力しているとこれまでの立場を強調。米朝協議を加速させるためにも、南北関係を進展させる必要があると主張したという。北朝鮮は第3回首脳会談で4月の会談で合意した板門店宣言の着実な履行を確認し、宣言に明記された「年内の朝鮮戦争終戦宣言」に向けて米韓が積極的に動くよう促すとみられる。

南北首脳、9月に平壤で会談 閣僚級で合意

日経新聞 2018/8/13 19:12



【ソウル＝恩地洋介】韓国と北朝鮮は13日、板門店で閣僚級会談を開き、南北首脳会談を9月中旬に平壤で開く日程で合意した。文在寅（ムン・ジェイン）大統領と金正恩（キム・ジョンウン）委員長の会談は4月と5月に続き3回目。

米朝の非核化交渉は北朝鮮側が非核化措置を進めずに膠着状態となっている。文氏は北朝鮮に具体的な措置を促して事態打開につなげたい考えだ。

韓国大統領が平壤を訪問するのは盧武鉉(ノ・ムヒョン)大統領以来、11年ぶり。南北は今年4月の首脳会談で合意した「板門店宣言」に文氏が今年秋に訪朝すると明記していたが、具体的な時期には触れていなかった。

韓国の趙明均(チョ・ミョンギョン)統一相と北朝鮮の李善権(リ・ソングォン)祖国平和統一委員会委員長が13日に板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で会談した。韓国側は当初、8月末から9月初旬にかけての首脳会談開催を念頭に置いていたが、韓国大統領府報道官は閣僚級会談後「9月初旬は難しい」との見方を示した。

閣僚級会談では、板門店宣言に沿って、鉄道の連結事業など南北経済協力を推進する方針も確認した。開城に設置する共同連絡事務所の開所式を早期に開く。8月20～26日には、朝鮮戦争で生き別れた離散家族の再会事業を北朝鮮の金剛山で約3年ぶりに実施する。

米朝の非核化交渉を巡っては、北朝鮮に核施設の申告を求める米国に対し、北朝鮮側は朝鮮戦争の終戦宣言などの体制保証が先だと主張している。米朝の「仲介役」を自任する文大統領は、南北米の3者または中国を含む4者で早期の終戦宣言を実現する方策を探る。

南北首脳、9月に平壤で会談 閣僚級で合意

日経新聞 2018/8/13 15:08

【ソウル＝恩地洋介】韓国と北朝鮮は13日、板門店で閣僚級会談を開き、南北首脳会談を9月中旬に平壤で開催することで合意した。文在寅(ムン・ジェイン)大統領と金正恩(キム・ジョンウン)委員長の会談は4月と5月に続き、3回目。4月に取り交わした板門店宣言に、文氏による今年秋の訪朝を明記していた。北朝鮮の非核化を巡る米朝協議が滞るなか、南北首脳は朝鮮戦争の終戦宣言の早期実現を探る。

韓国の趙明均(チョ・ミョンギョン)統一相と北朝鮮の李善権(リ・ソングォン)祖国平和統一委員会委員長が板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で会談した。韓国側は8月末から9月初旬にかけての首脳会談開催を念頭に置いていたが、具体的な日程は合意できなかった。

非核化交渉を巡り、北朝鮮は米国に終戦宣言の実現を求めている。米朝の仲介役を自任する文大統領は、南北米3国か中国を含む南北米中4国による早期の終戦宣言に向けて調整したい考え。米朝協議の停滞を受けて鉄道連結など南北間の経済協力も滞っていることもあり、金正恩氏は首脳会談で文氏に協力の推進を促すとみられる。

産経新聞 2018.8.13 21:27 更新

【激動・朝鮮半島】9月中旬に平壤で3回目の南北首脳会談

閣僚級で一致も日程は合意できず…北が経済協力求め揺さぶりか



(左から) 韓国の文在寅大統領(聯合＝共同)、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長

【ソウル＝桜井紀雄】韓国と北朝鮮は13日、文在寅(ムン・ジェイン)大統領と金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長の3回目となる首脳会談を9月中旬に平壤で行うことで合意した。軍事境界線がある板門店(パンムンジョム)の北側施設「統一閣」で開いた閣僚級会談で決めたが、具体的日程では合意できなかった。

米朝の非核化協議が停滞する中、文政権は首脳会談を足掛かりに「仲介役」として打開を図る思惑がある。南北は4月の首脳会談で発表した「板門店宣言」に文氏が秋に訪朝することを明記したが、韓国では8月末～9月初めに前倒しするとの期待も出ていた。金正恩政権は、文政権の取り込みを一層進め、朝鮮戦争の終戦宣言に向けた米国への働き掛けや経済協力を迫る狙いがあるとみられる。

閣僚級会談では、板門店宣言の履行状況についても議論した。南北の鉄道や道路の連結をうたった宣言に基づき、13日に北朝鮮内の道路の共同調査も始まったが、文政権は北朝鮮への制裁違反を避けるため、本格的な経済協力には踏み切っていない。北朝鮮は宣伝サイトで「米国の制裁策動に便乗した南側の不当な対応」だと不満を示しており、首脳会談の日程を交渉カードに、制裁に縛られない経済協力を迫り、揺さぶりを掛けた可能性がある。

北朝鮮側首席代表の祖国平和統一委員会の李善権(リ・ソングォン)委員長は韓国の趙明均(チョ・ミョンギョン)統一相らとの会談の最後、「協議で提起した問題が解決されなければ、予想できない問題が生じ、全てが難航するかもしれない」と述べ、韓国側を牽制(けんせい)した。記者団に首脳会談の日程は「もう決まっている」と話しながらも日付は明言しなかった。

日程について韓国大統領府報道官は「9月初めは難しいのではないか」との見通しを示した。北朝鮮は9月9日に金氏が「大慶事」と位置付ける建国70年の記念行事を控えている。

南北首脳会談 ピョンヤンで来月開催

NHK2018年8月13日 15時32分

韓国と北朝鮮は、閣僚級会談を開き、ムン・ジェイン(文在寅)大統領が、来月、ピョンヤンを訪問し、キム・ジョンウン(金正恩)朝鮮労働党委員長と会談することで合意しました。ムン大統領としては、アメリカと北朝鮮の間で

非核化をめぐる交渉が難航する中、キム委員長に非核化に向けた具体的な措置を取るよう促し、局面の打開をはかりたい思惑があると見られます。



韓国と北朝鮮は、ことし4月の首脳会談で署名された、共同宣言の履行などについて協議するため、13日午前からおよそ3時間半にわたって、軍事境界線にあるパンムンジョム（板門店）の北朝鮮側の施設で、閣僚級会談を開きました。

会談には、韓国側からチョ・ミョンギョン統一相が、北朝鮮側から祖国平和統一委員会のリ・ソングォン委員長がそれぞれ出席し、終了後に共同報道文を発表しました。

それによりますと、南北は共同宣言に盛り込まれていた、ことし秋のムン・ジェイン大統領のピョンヤンへの訪問について来月とし、キム・ジョンウン朝鮮労働党委員長と会談することで、合意したということです。

韓国大統領府の高官は、首脳会談の開催が9月に決まったことを歓迎したうえで、会談は、北朝鮮の建国記念日である、来月9日以降になるのではないかとの見方を示しました。

ムン大統領は、南北関係が進展するには米朝関係の改善が不可欠だとの立場で、アメリカと北朝鮮の間で非核化をめぐる交渉が難航する中、会談でキム委員長に、非核化に向けた具体的な措置を取るよう促し、局面の打開をはかりたい思惑があると見られます。

ピョンヤンでの開催は過去2回

南北首脳会談が北朝鮮の首都ピョンヤンで開かれたことは過去に2回あります。1回目は2000年6月に開かれました。

韓国からは当時のキム・デジュン（金大中）大統領が、閣僚や経済界の代表など130人とともに、特別機でピョンヤンを訪れました。

空港では、北朝鮮のキム・ジョンイル（金正日）総書記の出迎えを受け、2人が両手で握手を交わす様子は世界中に大きく報じられました。

2日間にわたって市内の迎賓館で首脳会談が開かれ、南北の統一は同じ民族どうしで自主的に目指すことを確認し、朝鮮戦争などで南北に離れ離れになった離散家族の相互訪問を行うことなどで合意しました。

キム・デジュン大統領は、初の南北首脳会談の実現に貢献したなどとして、この年、ノーベル平和賞を受賞しました。

2回目は2007年10月に開かれました。韓国からは当時の

ノ・ムヒョン（盧武鉉）大統領が、関係閣僚や経済、文化の代表などおよそ300人とともに、ピョンヤンまで陸路で移動しました。

南北を隔てる軍事境界線では、いったん車を降りて、韓国の国家元首として初めて軍事境界線を歩いて越えました。ノ大統領は、3日間ピョンヤンに滞在し、2日目にキム・ジョンイル総書記と首脳会談を行って、朝鮮戦争の正式な終結を宣言できるよう、協力していくことなどで合意していました。

北朝鮮 リ委員長 合意の履行求める

13日の閣僚級会談で、北朝鮮のリ委員長は「首脳会談などで提起してきた問題がもし解決されないならば、予想できない問題が発生するだろう」と述べ、ことし4月の南北首脳会談の合意について速やかに履行するよう韓国側に直接、促しました。

北朝鮮と韓国は、南北間の鉄道や道路の連結などの経済協力について合意しましたが、韓国側は国際的な制裁措置に抵触しないよう、まずは共同で調査や研究を進めたいとしていて、北朝鮮側はこの姿勢に不満を示したものとみられます。

産経新聞 2018.8.13 23:40 更新

【歴史戦】韓国で14日、初の慰安婦記念日 民間の反日行事の中、対日関係改善を目指す文在寅政権は…

【ソウル=名村隆寛】韓国は14日、初の「日本軍慰安婦被害者をたたえる日」を迎える。15日は日本の朝鮮半島統治からの解放記念日「光復節」で、各地で対日批判の行事が行われる。

14日は韓国女人性、金（キム）学（ハク）順（スン）さん（故人）が1991年に慰安婦であったことを初めて公にした日で、昨年末、公式記念日となった。韓国女性家族省によると、韓国政府は14日、中部の忠（チュン）清（チョン）南（ナム）道（ド）天（チョ）安（ナン）市にある国立望郷の銅像前で記念式を行う。式には元慰安婦や市民団体、青少年を含む市民ら400人余りが参加する。

また、北西部の京（キョン）畿（ギ）道（ド）楊（ヤン）州（ジュ）市と南西部の全（チョル）羅（ラ）南道長（チャン）城（ソン）郡では市民団体などが慰安婦像を設置する。ソウルや全羅北（プク）道（ト）でも設置計画があり、韓国で現在100体以上設置されている慰安婦像はさらに増える。ソウルの公園では、朴（パク）正（チョン）熙（ヒ）元大統領の胸像を撤去し慰安婦像を設置する動きもある。

国立国楽院などは記念公演を開催。南部の慶（キョン）尚（サン）南道晋（チン）州（ジュ）市の国立博物館では特別行事が催され、各地で慰安婦問題をテーマとした映画の上映や展覧会もある。

文（ムン）在（ジェ）寅（イン）政権は日韓パートナーシップ宣言から20年の今年、対日関係の改善を目指して

いる。ただ、「慰安婦の日」は文政権下で制定されており、一連の反日行事は文政権のジレンマにもなっている。釜山の市民団体は日本総領事館前への徴用工像設置を求め15日に総領事館周辺で集会や大行進を計画しているが、警察が制限を通告。当局も日本への配慮に苦慮している。

海軍相、終戦内幕の証言録 元首相の米内光政、防衛研が保管

共同通信 2018/8/13 18:32



元首相米内光政が終戦に至る内幕について聴取された際の、海軍側が残した証言録「会談摘録」（防衛研究所戦史研究センター所蔵）

太平洋戦争の終結時に海軍相を務めた元首相米内光政（1880～1948年）が、終戦に至る内幕について米国の調査団に聴取された際、海軍側が手控えとして残した米内の証言録が防衛省防衛研究所（東京都新宿区）に保管されていることが13日、分かった。

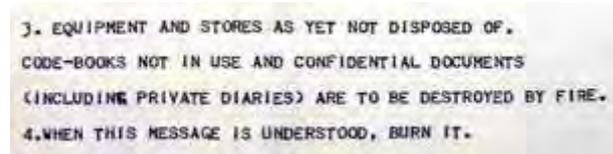
「(陛下ニ) 聖断ヲ仰ギ奉ツタ」「内面的ニハ終戦工作ヲヤリマシタ」など、戦況悪化から終戦に向かう過程での心境の機微が読み取れる。聴取内容の英訳を基にした米調査団の報告書は公表されているが、専門家は「初めて見る史料」としている。

公文書廃棄、73年前も 敗戦の霞に何日も炎と煙が 朝日新聞デジタル木村司 2018年8月13日 20時44分



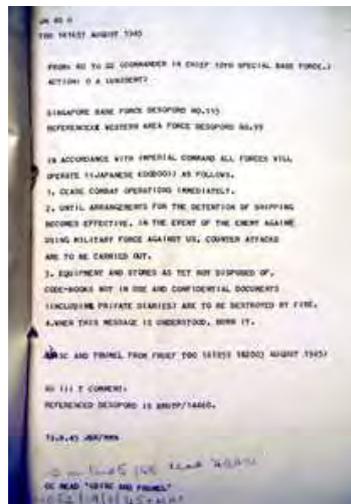
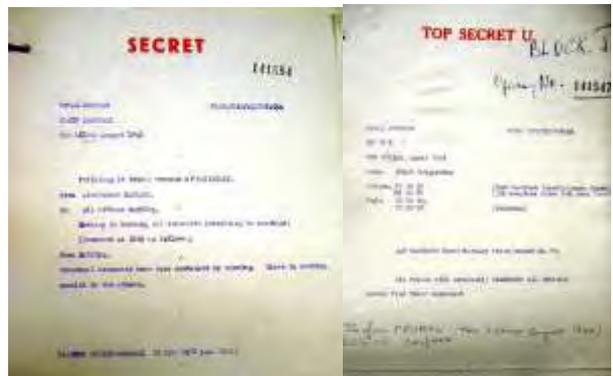
札幌市豊平区に置か

れていた旧陸軍の北部軍司令部で、作戦室に勤務していたという大坪稱（ただい）さん（故人）が、終戦直後に広場で書類が焼却された様子を描いた絵（「札幌郷土を掘る会」代表の小松豊さん提供）



「秘密

文書を焼却処分せよ」「この電文が理解されれば焼却せよ」——。1945年8月18日、旧日本海軍内でシンガポールから発せられたことを記した英国の公文書。関東学院大の林博史教授が英国国立公文書館で確認した



73年前の敗戦時、陸海軍や内務、外務、大蔵各省など

日本のあらゆる組織が、機密性のある公文書焼却に血眼になった。

敗戦時の公文書焼却について、当時の蔵相は「閣議で決めた」と戦後語っている。内務省職員だった奥野誠亮元法相は生前、「戦犯にされる恐れのあるような公文書を焼却しろという指令を書いた」と証言した。

東京裁判に出された証言では、陸相により焼却が命じられたのは8月14日。防衛庁の防衛研修所30年史は「陸海軍は、秘密文書が連合国軍の手に落ちるのを防ぐため、重要文書を焼却した。陸軍省や参謀本部のあった市ヶ谷台、海軍省や軍令部のあった霞が関などでは、何日間も炎と煙が立ち上った」と記す。

日本軍の暗号電報を解読した米英の文書には、インドネシアやシンガポールに展開する軍に焼却が命じられた様子も記録されている。

歴史を伝える資料の多くがこうして失われたが、偶然にも残されたケースもある。国文学研究資料館（東京）の加藤聖文准教授（51）は、各地の自治体で貴重な資料を確認してきた。ただ、公文書への意識の低さや自治体の財政難などから、散逸や腐食の恐れがあるものもあるという。

今夏に訪ねた鳥取県境港市では、本土決戦時の動員の流れを示す「(秘)」と書かれた資料などが段ボール箱に詰め込まれ、旧幼稚園舎に山積みされていた。図書館建て替えに伴う一時的な保管場所だが、担当する市史編纂（へんさん）室は嘱託職員1人のみで、「人員や予算の確保も難しい」状態という。

加藤准教授は、焦りを募らせる。「私たちの両親や祖父母ら当時を生きた人たちの生死に関わる記録です。『公文書＝国民のもの』と自覚しないまま、私たちは今後も歴史を消し去っていくのでしょうか」（木村司）

戦友の生きた証し、私は焼いた 91歳が告白する「罪」 朝日新聞デジタル国吉美香、木村司 2018年8月13日 20時31分



「雪風」の絵を背に戦時中の

記憶をたどる西崎信夫さん＝2018年7月2日午後3時49分、東京都西東京市、木村司撮影



1945年夏、日本海に面した京都・宮津湾近く。油まみれの軍服を着た一人の少年が風呂敷を担いで歩いていた。人目に付かない丘まで来ると、穴を掘って書類を投げ入れた。そして、マッチで火を放った。

パチパチ、パチパチ。書類は音を立てて燃え、熱気が顔に迫った。「お前はまだ軍に協力しているのか」。少年は、戦友の声を聞いた気がした。

当時18歳の少年だった西崎信夫さんは91歳になったいま、東京都西東京市に一人で暮らす。居間の壁には、魚雷の射手として乗り組んだ駆逐艦「雪風（ゆきかぜ）」の絵が掛けられている。左太ももには銃撃の痕が残る。

「戦友たちに悪いことをしてしまった」。焼いた日のことを、そう言った。

15歳で海軍特別年少兵に志願。43年から雪風に乗り、44年のマリアナ沖、レイテ沖の海戦を経て、45年4月には戦艦「大和」とともに沖縄特攻に出撃した。

東シナ海で、米軍の爆撃や魚雷を受けた大和が真っ二つに割れるのを目撃した。雪風から海面に投げ入れた縄を2人がつかんだが、西崎さんは重さに耐えきれず、1人をたたき落とした。この場面は戦後、何度も夢に見た。

京都で敗戦を迎え、そこで上官の水雷長に命じられた。「軍の機密を焼却しろ。1人でやれ」

乗員数百人の部隊遍歴、人事評価を記した調査表、暗号の解読書……。 「人秘」「軍秘」と書かれた書類を半日かけて燃やし、灰も土の中に埋めた。

「罪」の重さを自覚したのは70代半ばを過ぎ、戦争体験を人前で話してから。あとき偶然見つけて抜き取った自身の記録を、戦後初めて読み返した。「俺は頑張って生きていたんだな」という思いがわいたが、次第にいたたまれなくなった。「燃やした公文書は、戦友たちの命の集積。戦争の真実を正確に伝えられなければ、海に沈んだ仲間たちが浮かばれない」

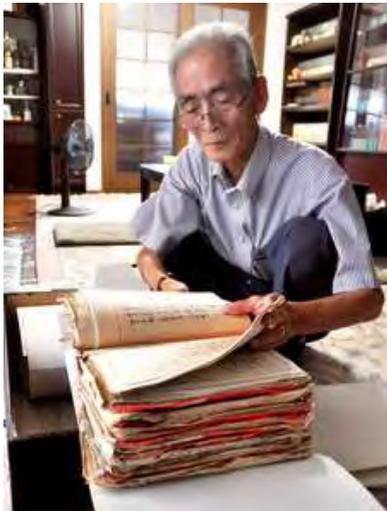
戦後73年。雪風の乗組員で生きているのは数人だけになった。西崎さんは「業を背負ったもの」として、生きている限り体験を伝えていこうと考えている。（国吉美香、木

村司)

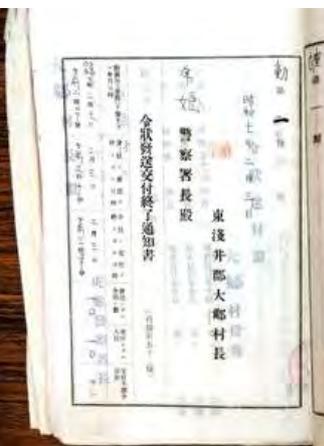
赤紙配った、みんな死んでしもうた 軍に背き守った秘密
朝日新聞デジタル国吉美香 2018年8月13日 20時28分



西邑仁平さんが残した資料。村から出征するときの様子などの記述がある(滋賀県長浜市の浅井歴史民俗資料館提供)



西邑仁平さんが持ち帰った資料を見つめる長男の紘さん=2018年7月20日午後1時46分、滋賀県長浜市、国吉美香撮影



73年前の敗戦時、陸海軍や内務、外務、大蔵各省など日本のあらゆる組織が、機密性のある公文書焼却に血眼になった。軍は警察を通じて全国の役場にも焼却を命じた。だが、命令に背いた人もいた。

「うちに資料がある」。滋賀県長浜市の浅井歴史民俗資料館に、100歳を超えた西邑仁平(にしむらにへい)さんから、そんな話が持ち込まれたのは2006年の夏。倉庫2階には、茶色の薄紙で包まれ、縄で縛られた束が積まれていた。

《令状交付終了ス》

《応召員〇〇ハ/長浜駅発ノ列…》

かすかに息ある父、目の前で捨てられた 戦争孤児の証言
朝日新聞デジタル編集委員・清川卓史 2018年8月13日 11時33分



駅で眠る戦争孤

児=1946年9月、福岡県の小倉駅





誰も助けてくれなかった——。73年前の終戦後。東京・上野駅など各地の大きな駅には「浮浪児」と呼ばれた子どもたちがいた。親を失った戦争孤児。救いの手をさしのべられることもなく、多くの命が路上に消えた。駅の子たちの目にうつった社会、大人の姿とは。

終戦後初めての冬。当時6歳だった奥出廣司さん(79)＝京都府宇治市＝は、はだしてふるえながら、京都駅の改札の外に立っていた。

買い出しから戻った乗客の顔を見つめて食べ物をめぐんでくれるのをじっと待った。「どうすれば同情してもらえるか、そればかり考えていた」。物乞いしか生きる方法はなかった。もらったサツマイモは土を落として生でかじった。2日間、何も口にできないこともあった。

父と姉(当時8歳)と3人で駅に行き着いたのは1945年11月だ。奥出さんが2歳のときに母は病死。病弱な父は戦後の混乱で職と住まいを失った。2人の子を預かってもらおうと父は親戚を訪ね歩いたが、みな断られた。

記憶では11月14日。衰弱した父が駅の待合室のベンチで倒れた。「こりゃ、もうだめや」。呼んできた駅員は、かすかに息がある父を担架に乗せ、駅の奥にあった大部屋に運んだ。そして、奥出さんと姉の目の前で「父はゴミのようにほかされた(捨てられた)」。その部屋には何十もの行き倒れた人々の遺体が並んでいた。

駅員は「ちゃんと火葬するから…」

モールス信号打つ元通信兵 戦友に今伝えたい言葉は…

朝日新聞デジタル岩崎生之助 2018年8月13日16時10分



電鍵をたたいてモ

ールス信号を打つ瀬戸山定さん＝さいたま市北区

太平洋戦争中に使っていた装置で、今もモールス信号を打つ元通信兵がいる。瀬戸山定(さだむ)さん(92)＝さいたま市北区。戦争体験を語り継ぐ活動に加わり、熟練の手つきで信号音を響かせてきた。15日で終戦から73年。今は亡き戦友への思いは、消えることがない。



ニ・イ・タ・カ・ヤ・マ・ノ・ボ・レ——。昨秋、福岡市であった戦争体験を語る集会。瀬戸山さんは、「電鍵(でんけん)」と呼ばれる装置を小刻みに連打し、長短2種類の音を組み合わせさせて送信してみせた。「アイシテマス」「カネヲクレ」。こんな例文で笑いも誘いながら、参加者に装置にふれてみるよう勧めた。

宮崎県日向市出身。幼い頃から飛行機に憧れ、1942年春に東京陸軍航空学校に入った。操縦士を夢見たが、配属先は「通信」。失意のうちに訓練を重ねて好成绩を修め、任地発表の日を迎えたが、今度は学校に残っての指導係を命じられた。「前線に行くこともできないのか」。悔しさがこみ上げた。

約3カ月後、同期を乗せた輸送船が任地に向かう途中、フィリピン沖で米軍の潜水艦に撃沈された。苦楽を共にした多くの仲間が命を落とした。「任地を目前にして散華した無念を思うと言わねばならない」。90歳を過ぎて記した自分史に、そうつぶった。

45年5月、東京の宿舎が空襲…

名古屋に杉原千畝の展示施設 10月母校に、功績紹介共同通信 2018/8/13 18:09



杉原千畝の功績を紹介する施設「センポ・スギハラ・メモリアル」のイメージ(愛知県教委提供)

愛知県は13日、第2次世界大戦中に多くのユダヤ人難民を救った外交官杉原千畝の功績を紹介する施設を10月中旬に開き、名称を「センポ・スギハラ・メモリアル」にすると発表した。母校の県立瑞陵高校(名古屋市)に、ビザの発給リストの複写やブロンズ像などを展示する。

名称は杉原がリトアニア領事代理時代に、自身の名前を音読みで「センポ」と呼んだエピソードが残っていることなどにちなんだ。同校のホームページで名称を募り、在校生ら95件の応募から選んだ。施設は正門西側の屋外に設け、自由に見学できる。

「センポ・スギハラ・メモリアル」今秋開設 杉原千畝氏 顕彰施設

日経新聞 2018/8/13 17:28

愛知県は13日、第2次世界大戦中に「命のビザ」を発行し、多くのユダヤ人を救った外交官の杉原千畝氏の功績をたたえる施設を10月中旬に公開し、名称を「センポ・スギハラ・メモリアル」にすると発表した。4つのゾーンでビザリストを復元した陶板や、杉原氏の生涯などをまとめたパネルを展示する。



杉原氏の顕彰施設の完成予想図（愛知県教育委員会提供）



杉原氏がビザを渡す場面をイメージしたブロンズ像などを展示する（愛知県教育委員会提供）

杉原氏の母校、県立瑞陵高校（旧制第五中学校）の正門西側に屋外展示施設（面積475平方メートル）として整備。誰でも自由に見学できる。

名称は杉原氏がリトアニア領事代理時代、自身の名前を音読みし「センポ」と名乗っていたことにちなんだ。同校ホームページで名称を募集し、在校生の案が選ばれた。

「決断と希望ゾーン」には杉原氏がビザをユダヤ人家族に渡す場面をイメージしたブロンズ像や、42枚のビザリストを原寸大で復元した陶板を配置。「運命のビザゾーン」ではビザ発行の歴史的な経緯やユダヤ人の避難ルートなどを展示する。

このほか、幼少期や外交官としての歩みなども紹介。イスラエル政府が寄贈するオリーブの樹も植える。スマートフォンで展示パネルのQRコードを読み込めば、音声解説を聞くことができる。

杉原氏は岐阜県生まれで、幼少時代から17歳まで名古屋で生活した。大村秀章知事は13日の記者会見で「人道的功績は世界的に価値がある。国内だけでなく、世界中から足を運んでいただきたい」と話した。

シチズン、ビクター... 戦時下、消された社名

太平洋戦争で対米英感情が悪化すると、英語を「敵性語」として排斥する運動が国主導で本格化し、多くの企業が社名変更を余儀なくされた。とりわけ洋楽の普及とともに発展したレコード業界は、ジャズやハワイアンレコード演奏や所有自体が禁止され、大きな打撃を受けた。

戦争真っただ中の一九四二年、今もレーベル名が残る「コロムビア・レコード」は当時の社名の日蓄工業から「ニッタク・レコード」に、「ポリドール・レコード」は「大東亜レコード」にそれぞれ改称した。四三年には「キングレコード」が「富士音盤」となり、「日本ビクター」（現JVCケンウッド）は社名を「日本音響」に変えた。

改称の経緯などについて各社の広報担当者は「当時を知る社員はもうおらず、詳しいことは分からない」と口をそろえる。一部のレーベル名に「レコード」の表記が許された理由も不明だ。

他業種では、市民に親しまれるようにと名付けられた「シチズン時計」は、「大日本時計」に改称。「ブルドック食品」（現ブルドックソース）は創業者のゆかりから「三澤工業」に、「大同メタル工業」は製品名を和訳して「大同軸受工業」となった。

多くの企業は戦後間もなく、元の社名に戻した。一方で、ヨーロッパを意味する「欧」の字が敵国を表すとして改称した「旺文社」は、今も使い続けている。

「戦局の悪化とともに敵性語の排斥は身近な国民生活に広く及び、演奏に対する規制も顕著になった」。洋楽史研究家の戸ノ下達也さん（54）は指摘する。四三年一月、政府がジャズやハワイアンなど約一千曲のレコード演奏を禁止、所有者は供出させられた。内閣情報局が同年二月に発行した週刊グラフ雑誌「写真週報」には、アメリカンジャズのレコードをたたき割るイラストが掲載されている。

戦後、複数のレコード会社で勤務した音楽文化研究家の長田暁二さん（88）は「平和な時代だからこそ、自分の好みの音楽を聴くことができる。国家が音楽に『敵性』のレッテルを貼り、自由を奪った時代があったことを忘れないでほしい」と訴える。

（東京新聞）

戦時中に制作されたレコードの原盤。ラベルには「富士音盤」などと書かれている =東京都渋谷区古賀政男音楽博物館で



「8・15」いま問い直す意味は 平成最後の夏

2018/8/13 15:02 情報元日本経済新聞 電子版

政府主催の「全国戦没者追悼式」が8月15日に初めて行われたのは1963年。アニメ「鉄腕アトム」のテレビ放送が始まり、東京五輪を翌年に控えていた。「万感胸に迫り、ここに深く追悼の意を表す」。昭和天皇の姿がテレビで全国に放送され、「終戦の日」の追悼式は夏の恒例行事として定着した。



戦後70年を機に、期間限定で一般公開された「終戦の詔書」の原本(2015年8月、東京都千代田区の国立公文書館)

45年8月15日、昭和天皇はラジオを通じて国民に終戦を伝えた。「昭和天皇実録」によると、戦後10年の55年以降、この日は外出を控え、63年からは死去前年までほぼ毎年、戦没者追悼式に出席している。89年に即位した天皇陛下も引き継がれた。

ただ、終戦の詔書は14日付。日本が降伏文書に調印したのは9月2日だ。原武史放送大教授(日本政治思想史)は「厳密には8月15日はポツダム宣言受諾が国民に伝えられた日であり、戦争終結の日ではない。だが玉音放送の衝撃は、戦争が終わった日として人々の心象風景となった」と指摘する。

昭和天皇の玉音放送で戦争が終わった——。月遅れ盆という季節も重なり、ある意味で誤解されたイメージが戦没者の追悼と「8.15」を結びつけてきた。

政府が8月15日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と公式に定めたのは82年のことだ。「なるべく政治問題にならぬよう、さらっとやってくれというムードだった」。総理府の内閣総理大臣官房参事官として有識者会議の事務局を務めた小西亘さん(82)が当時を振り返る。

81年9月に発足した「戦没者追悼の日に関する懇談会」(座長・石川忠雄慶応大塾長)の委員には作家や元最高裁判事、実業家が顔をそろえた。祈念する日の制定は遺族会を支持母体とする自民党の要請が背景だった。

非公開とされた会議では「今更制定する必要があるのか」など、否定的な意見も出たという。小西さんによると、文芸批評家の江藤淳氏が石川座長から報告書の原案作成を内々に託された。

「政治的主張や宗教を超えて受け入れられるには、どのような日とすべきか」。江藤氏は小西さんを自宅に呼んで議論し、将来に向けて平和を願うことに重点を置く日とする

ことを思いつく。

小西さんは「結局は新時代到来の日として、多くの国民が受け入れていた8月15日しか考えられなかった」と話す。

委員の総意として82年3月に提出された報告書は国会でも取り上げられた。当初、与党が求めた閣僚による靖国神社公式参拝は盛り込まれず、野党からも大きな反対の声は上がらなかった。

「この文章はなかなかの知能犯ですね。戦争が再び起こらないよう誓い合うのは必要だ」。質問に立った野党議員がこう述べると、小西さんは上司に肩をたたかれた。「あれは褒め言葉だぞ」。

昭和天皇の「玉音」と切り離せない日本人の終戦観。昭和とつながった平成の終幕が近づく今日でも、国民が過去の戦争を振り返る日として、8月15日が自然に受け入れられている。「厳密な歴史の日付より将来の平和を願うことを大事にしたのは正解だった。戦争体験者が減っても平和を祈ることはこれからも変わらないのだから」。小西さんはそう考えている。

■「政教分離」議論の歴史も

政府主催の「全国戦没者追悼式」の歴史はサンフランシスコ講和条約が発効し、連合国による占領統治が終わった1952年にさかのぼる。

開催日は8月15日ではなく5月2日、会場は新宿御苑だった。その後も政府による開催を求める声は強かったが、新憲法が規定する政教分離の観点から会場選びなどの議論がまとまらず、10年以上、開催されなかった。

宗教的儀式を伴わないという形で、初めて8月15日の開催となった63年の会場は日比谷公会堂。翌64年は「遺族の要望」として靖国神社を会場としたが強い批判を浴び、65年以降は日本武道館での開催が通例となった。

抑留生活、体験で学んで 舞鶴引揚記念館30周年

日経新聞 2018/8/13 10:46

シベリア抑留や戦地からの引き揚げに関する資料を所蔵する京都府舞鶴市の「舞鶴引揚記念館」は開館から30年の今年、収容所での生活を再現したスペースを新たに設けた。戦争を直接知らない若い世代にも体験してもらうのが狙い。



舞鶴引揚記念館に新設された「抑留生活体験室」(京都府舞

鶴市) = 共同

今年4月に新設された「抑留生活体験室」は、手記や回想記を基に、旧ソ連により抑留された元日本兵らの収容所「ラーゲリ」の内部を再現。壁にシベリアから取り寄せた木材を使い、人形に着せた軍服や毛布も旧日本軍のもので、展示品には触ることができる。

木のベッドは上下2段に分かれ、ランプはあるが薄暗い。実際に横たわってみると硬く、寝返りを打てないほど狭かったことが分かる。中央にはストーブが置かれているが、厳しい寒さから就寝時も帽子をかぶっていたという。

記念館は養成講座を通じて語り部育成に取り組むほか、修学旅行や平和学習の誘致にも力を入れている。山下美晴館長は「体験を通じ、平和について具体的に考えるきっかけにしてほしい」と話している。

1988年の開館後、90年代には年間20万人以上が訪れる時期もあったが、2012年度には約6万9千人に落ち込んだ。15年には収蔵資料のうち570点が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の「世界の記憶(世界記憶遺産)」に登録され、次世代への継承が課題となっている。[共同]

漫画「はだしのゲン」アラビア語に翻訳 エジプトで出版 NHK2018年8月13日 6時59分



原爆が投下された広島で生き抜く少年を描いた日本の漫画「はだしのゲン」の1巻から3巻までがアラビア語に翻訳、出版されました。翻訳をしたエジプトの大学教授は、あらかじめ広島と長崎を訪れて原爆投下に関する理解を深めたということです。

漫画「はだしのゲン」は原爆投下後の広島を生き抜く少年を描いた作品で、これまでに20を超える言語に翻訳されています。

全10巻からなり、このうち1巻から3巻までがエジプトでアラビア語に翻訳、出版されました。

首都カイロで12日、記念の催しが開かれ、国際交流基金カイロ日本文化センターの深沢陽所長が「エジプトにとどまらず、アラビア語圏の人々すべてがこの作品を読めるようになったことをうれしく思います」と述べました。

翻訳を担ったのは、カイロ大学で日本語を教えるマーヒル・シリビーニー教授です。シリビーニー教授は、3年前に1巻を翻訳しましたが、その後、広島や長崎を訪問して原爆

投下に関する理解を深めたうえで、1巻の翻訳をやり直し、また2巻と3巻を新たに翻訳したということです。会場では、早速3巻まとめて買い求め、シリビーニー教授のサインをもらう人の姿も見られました。シリビーニー教授は、来年2月までに10巻すべてをアラビア語で出版したいとしていて「中東の人々に核兵器の恐ろしさを知ってほしい」と話していました。

「平成」代替わりの記録 一部の閲覧を制限 国会図書館 NHK8月14日 4時27分



来年春の天皇陛下の退位などに伴う式典の準備が進む中、国立国会図書館は「平成」への代替わりの際の記録のうち、外国の賓客の移動経路など一部の閲覧を制限しています。来年春の天皇陛下の退位や皇太子さまの即位に伴う式典に向けて、政府は、今月1日に内閣官房と内閣府の26人の専従職員からなる「皇位継承式典事務局」を設置するなど、準備を進めています。

こうした中、国立国会図書館は、内閣府からの要請を受けて、「平成」への代替わりの際に行われた式典に関する記録のうち、外国からの賓客を含めた要人の移動経路や宿泊先のほか、各国の警護関係者の名前など一部の閲覧を制限しています。

閲覧の制限を要請した理由について、内閣府は要人の警護などに支障を及ぼすおそれがあるためなどと説明しています。

国立国会図書館では、閲覧の制限は最小限にとどめたいとしていて、制限している記録についても、できるだけ速やかに閲覧できるようにしていきたいとしています。